

2018(平成 30)年度 事業報告書

(2018(平成 30)年 4 月 1 日から 2019(平成 31)年 3 月 31 日まで)

学校法人 松蔭女子学院

目次

はじめに

理事長、学長、校長メッセージ	1
I 法人の概要	4
1. 法人設置の目的、建学の精神	4
2. 学校法人の沿革	4
3. 設置する学校、学部学科、入学定員等	5
4. 役員（理事・監事）に関する事項	6
5. 評議員に関する事項	7
6. 教職員に関する事項	7
7. 校地・校舎等面積	7
II 事業の概要	8
1. 法人	8
2. 中学校・高等学校	11
3. 大学	22
III 財務の状況	42
1. 経年比較	42
2. 財産目録	45
3. 監事の監査報告書	46
4. 借入金の状況	47
5. 資金調達の状況	47
6. 寄附金の状況	47
7. 主要資産負債の内訳	47
8. 補助金の推移	47
9. 科学研究費補助金の受入状況	47
IV 対処すべき課題	48
1. 中学校・高等学校教育関係	48
2. 中学校、高等学校の生徒募集計画	48
3. 大学の新学部・新学科等の増設等	48
4. 大学の教育・研究関係	49
5. 大学の学生募集計画	49
6. 施設・設備関係	50
7. 財務関係	50

学校法人 松蔭女子学院

2018(平成 30)年度 事業報告書

(2018(平成 30)年 4 月 1 日から 2019(平成 31)年 3 月 31 日まで)

和して同ぜず

学校法人松蔭女子学院

理事長 中村 豊

2018 年、中学校・高等学校では「英語の松蔭」、大学は教育学部教育学科開設にあたり「教育の松蔭」をキャッチフレーズに生徒・保護者にアピールした結果、中学校では英語入試の受験生が増加し、入学者は約 100 名で高等学校入学者も微増した。大学では、入学者は前年比約 100 名増という結果となり、定員管理の厳格化という外的要因はあるものの、新学部の開設や大学全体の教育改革の取り組みが評価され、ここ数年間続いた入学者減にある程度の歯止めがかかったと言える。また、中学校は「2 ストリーム制」、高等学校は「3 コース制」の新制度カリキュラムが理事会で承認され、2020 年度よりこれが実施される運びとなったが、変化の激しいこれからの時代に柔軟に対応できる人材育成に力を注ぐ教育の提供が本学院に求められている。

1921 年に松蔭高等女学校校長を退職したエセル・ヒューズは 1928 年、『JAPAN AND HER PEOPLE』と題する本を英国で上梓している。「日本での学校生活」の最後の箇所ではヒューズは、「英語や日本語を通しての教育目的について日本と英国では全くに違う。個人の思想や探求によって獲得するための能力を用い、明確な知識の積み重ねによって、良き個性と独立独歩の人間を生み出そうとするのが英国の教育目的である。日本の生徒は、個々人の違いは考慮されず、国家の一員として、天皇と国家のためには没个性的でなければならない。これが最も重要な姿勢である。……数年前、神戸市郊外の造船所での軍艦進水式には、教育委員会の命令によってこの地域の生徒全員が集められた。艦長は国家への忠誠と愛国心を強調する訓示を述べていた。国民の税金を贅沢に使うことなしには軍艦は建造されないし、日本は外国に対する力を保持することもできない。個人を豊かにする思想抜きにして天皇と国家に忠実に仕える民となるために最善を尽くすというのが日本の教育理念なのである。(80 頁・中村訳)」と述べている。物事を常に主体的に捉え、自分の意見・主張を他者に伝えることによって個性が育まれるとヒューズは言いたかったのである。

1990 年代、グーグルやアップルは、近い将来インターネットを使ったビジネスが主流になることを予測し、世界各地から多種多様な人材を登用して世界大のネットワーク構築に成功し、大企業に発展した。『ジャパン・アズ・ナンバーワン』といわれ、日本型経済システムや日本的経営が礼賛された平成元年、株の時価総額世界ランキングでは 10 位中 8 位までが日本企業であったが、平成 31 年のランキングでは、日本企業は 1 社も入っていない。

令和時代は、異なる生き方、考えや意見を尊重するという多様な思考を培い、他者と協働することによって主体的に物事を考える「和して同ぜず」の人間教育が松蔭に求められている。

中期ビジョンのもとに

神戸松蔭女子学院大学

学長 待田 昌二

2018年度は、大阪北部地震、西日本豪雨、大型台風の近畿直撃、北海道の地震と大きな自然災害が相次いで発生した。情報収集、休校の決定とその伝達、学生の安否確認、被害を受けた学生へのアフターケア、など大学として正確かつ迅速な対応が求められた。大阪北部地震では朝の通学時間帯に京阪神の鉄道が止まり教職員の出校も困難となったが、そういった事態を十分に想定できていたとは言えない。学生の安全を最優先として何とか乗り越えられたものの、迅速な休校決定と伝達方法については反省点もあり、改善することとした。災害への対応は教育機関にとって最重要課題であることを再認識して備えていきたい。

このような中、学生たちは2018年度も多彩に活動してくれた。なぎなた部は全日本学生なぎなた選手権大会で団体優勝し、学生日本一に輝いた。卓球部は秋季関西学生卓球リーグで優勝し、関西の頂点に返り咲いた。ソフトテニス部は関西学生選手権大会ダブルス、西日本選手権大会ダブルスとともに優勝・準優勝を独占するという結果を残した。

都市生活学科の学生たちは、JR西日本主催の大学生による旅行提案企画である南九州カレッジ、新潟カレッジに参加し、それぞれ最優秀賞を受賞した。ファッション・ハウジングデザイン学科の学生たちは、神戸タータン協議会との連携のもと神戸タータンのデザインを用いた服の作成やファッションショーを行ってきたが、神戸ファッション美術館で開かれた「タータン展」のオープニングでファッションショーを行うとともに、デザインした服が参考展示された。これを契機として、神戸ファッション美術館と本学は連携協定を締結した。すでに連携協定を結んでいる神戸市立博物館とは「相楽園明治倶楽部」「茅葺き民家で日本文化体験」といった連携イベントに学生たちが参加した。他にも、神戸市灘区との包括連携協定に基づく「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成」など地域貢献活動が2018年度も活発に行われた。

食物栄養学科では、授業はもちろんのこと、補講や勉強会なども行ってきたが、その努力は管理栄養士国家試験を受験した2018年度卒業予定者全員合格という結果により報われた。また、心理士の国家資格である「公認心理師」がいよいよ始まり、第一回試験が実施されたが、本学大学院心理学専攻出身者の現役合格率は100%と、素晴らしい結果をおさめた。

2018年度の教学運営においては、教育学部の設置が最も大きな課題であったが、設置届出が受理され2019年4月に教育学部教育学科を開設することが決定した。2019年度からの文学部改編準備も進められた。総合文芸学科を統合した日本語日本文化学科が、三コース制という形で再出発する。英語学科では、新しい教員を迎えるとともにカリキュラムの大きな改編を行う。

そして2018年度には、学院130周年にあたる2022年度までの中期ビジョンを策定した。大学モットーを定めたことを契機に教育理念をもう一度見つめ直して、教育方針を学生に示す形で以下のように定めた。(1) 他者を受け入れ信頼することから出発する、(2) 成長し続けるための土台をつくる、(3) 自ら未来を拓く力をつける、(4) 学び合い成長する、(5) 思いやりの心を持ち社会に貢献する、の五つである。そして、大学としての2022年度までの中期目標を掲げ、その実現に向けて、各部門が中期計画を立案した。2018年度から始まったばかりだが、今後は中期ビジョンに基づく大学運営をしっかりと根付かせていく。

“Mustard Seed(からし種)” の学校たらん

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井 宣光

大学教育改革、高大接続改革、高校教育改革の三位一体の教育改革のうち、高大接続すなわち大学入試制度改革が2年後に迫っている。昨年度の高3生は、「浪人すると、次の入試は大変になるから」と現役志向を強めた。今年の高3生は、「もう後がない」と話している。改革の影響がすでに出ている。現高校2年生からは、現行の「一般入試」「推薦入試」「AO入試」はそれぞれ「一般選抜」「学校推薦型選抜」「総合型選抜」となる。単に名称変更ではない。受験生一人ひとりが持つ「学力の3要素」を、多面的・総合的に評価する入試への転換が図られる。「学力の3要素」とは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」をいう。英検など民間検定も、英語力の資料として利用される。

全ての大学が、足並みをそろえて入試改革を実現できるかという点、その現実性を疑う声は少なく無い。しかし、タイムリミットが示されているからには、対応策を検討し、この変革を有効に活用しなければならない。予測される混乱が、生徒の将来にマイナスとなることを回避できたならば、学校全体にたいしてプラス効果を生み出すことにもなる。

「一般型選抜」では、高校で思考力、判断力、表現力を習得しているかを評価する問題が導入される。それに合わせて、授業の組み立て方を工夫し、指導法を転換しなければならない。「教師が教え生徒が学ぶ」スタイルの従前の講義形式授業は、求められる力を育成しない。「学校推薦型選抜」「総合型選抜」では、受験生が高校時代に、何を、どのように取り組み、その結果どのように成長したかという記録（ポートフォリオ）を大学側に提示する。将来、この選抜方法が定着し、高校側の意識と取り組みが変容するならば、「貴学は、このような私の入学を許可しますか？」とばかり、挑戦的な姿勢の受験生が現れるかもしれない。

高校教育は、合格を目的とする大学受験教育から、個々の生徒の生涯を見すえた、コアスキル前提の大学進学教育へと変わりつつある。このことは、いずれの学校においても教育内容の見直しは、受験指導ではなく、英語教育変革、ICT 機器利用、探究型授業導入の3本柱で行われていることからわかる。これらは、21世紀型教育とも称されるが、英語4技能とICTリテラシーの習得、そしてPBLと呼ばれる課題解決学習やプロジェクト型学習を、教育課程に組み入れることが、あらゆる学校の課題となっている。

本学院が掲げる「一粒のからし種」の教育理念は、生徒・学生の育成という視点にとどまらず、学校そのものが、社会に蔭なす大きな樹木へと成長することも目標としたい。今後、松蔭流の次代の教育コンテンツ作りが本格的に始まるならば、それは本学院が「第二の建学」を迎える時でもある。

I 法人の概要

1. 法人設置の目的、建学の精神

学校法人松蔭女子学院は、建学の主旨たるキリスト教精神に基づき、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に則り教育事業を行うことを目的として、1951(昭和26)年に設立された。現在は大学院、大学、高等学校、中学校を設置し、いずれにおいても聖公会キリスト教精神に基づく教育を実践することを目的に、知識習得や勉学・研究内容の向上だけではなく、人格の完成と心身ともに健康な社会人を育成することを教育目標としている。

2. 学校法人の沿革

明治 25 年 1 月	英国聖公会 S. P. G. より派遣されたヒュー・J・フォス師らによって、神戸市山本通（現在の北野町）に松蔭女学校創立
明治 32 年 12 月	文部省より私立学校令による設立認可
明治 44 年 5 月	文部省より専門学校入学者検定第 8 条第 1 号による指定を受ける
大正 4 年 4 月	私立松蔭高等女学校に改称
大正 11 年 3 月	私立松蔭高等女学校財団法人設立
昭和 5 年 4 月	専攻科設置(修業年限 1 年)
昭和 22 年 3 月	松蔭女子専門学校設立認可
昭和 22 年 4 月	学校教育法により松蔭中学校設置
昭和 23 年 4 月	学校教育法により松蔭高等学校設置
昭和 25 年 3 月	松蔭女子専門学校廃止、松蔭短期大学(英文科、キリスト教科)設置
昭和 26 年 3 月	学校法人松蔭女子学院寄附行為認可
昭和 28 年 4 月	短期大学に服飾科増設
昭和 35 年 4 月	短期大学に家政科増設
昭和 37 年 4 月	短期大学に日本文学科増設
昭和 41 年 4 月	松蔭女子学院大学(文学部 キリスト教学科、英米文学科、国文学科)設置、これに伴い短期大学キリスト教科、日本文学科を廃科
昭和 44 年 4 月	短期大学学科呼称変更、英文学科、服飾学科、家政学科と改称
昭和 49 年 4 月	松蔭短期大学を松蔭女子学院短期大学と校名変更
昭和 55 年 4 月	六甲学舎第 1 期工事竣工に伴い、短期大学青谷より移転 大学キリスト教学科廃科
昭和 56 年 4 月	六甲学舎第 2 期工事竣工に伴い、大学垂水より移転
昭和 56 年 9 月	六甲学舎第 3 期工事竣工、大学・短期大学統合学舎完成
昭和 61 年 4 月	短期大学英文学科専攻課程設置(英文学専攻、英語学専攻)、家政学科専攻課程設置(生活科学専攻、食物栄養専攻)
昭和 61 年 4 月	短期大学家政学科食物栄養専攻が栄養士養成施設として指定される
平成 3 年 4 月	短期大学服飾学科を生活造形学科、家政学科を生活科学科に名称変更
平成 4 年 4 月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
平成 4 年 9 月	学院創立 100 周年
平成 7 年 4 月	大学・短期大学の校名をそれぞれ神戸松蔭女子学院大学、神戸松蔭女子学院短期大学に変更
平成 12 年 4 月	大学院文学研究科(修士課程 英語学専攻、国語国文学専攻)設置 大学文学部に総合文芸学科設置

- 短期大学英文学科の専攻毎の学生募集停止(専攻課程廃止)
短期大学英文学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
- 平成 13 年 4 月 大学文学部に心理学科設置
- 平成 14 年 4 月 大学院文学研究科博士課程(言語科学専攻)設置
- 平成 16 年 4 月 大学院文学研究科修士課程に心理学専攻設置
大学に人間科学部心理学科設置
大学文学部心理学科学生募集停止
- 平成 17 年 4 月 大学人間科学部に生活学科(都市生活専攻、食物栄養専攻)設置
短期大学生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)の学生募集停止
神戸松蔭女子学院短期大学を神戸松蔭女子学院大学短期大学部に校名変更
大学人間科学部生活学科食物栄養専攻が管理栄養士養成施設として指定される
- 平成 19 年 大学 60 周年記念事業実施
- 平成 19 年 9 月 短期大学部生活科学科(生活科学専攻、食物栄養専攻)を廃止
- 平成 20 年 4 月 大学人間科学部に子ども発達学科、ファッション・ハウジングデザイン学科を設置
大学文学部英語英米文学科、国文学科収容定員を変更
短期大学部英語コミュニケーション学科、生活造形学科の募集を停止
- 平成 21 年 4 月 大学人間科学部子ども発達学科が指定保育士養成施設に指定される
- 平成 22 年 4 月 大学 文学部心理学科を廃止
(財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。
- 平成 23 年 4 月 文学部英語英米文学科、国文学科の学生募集停止
文学部総合文芸学科、人間科学部心理学科の収容定員変更
文学部に英語学科、日本語日本文化学科を設置
- 5 月 神戸松蔭女子学院大学短期大学部を廃止
- 平成 24 年 学院創立 120 周年記念事業実施
- 平成 27 年 4 月 認定こども園松蔭おかもと保育園開園(系列社会福祉法人松蔭ミカエル福祉会)
- 平成 28 年 4 月 (財) 大学基準協会 大学評価(認証評価)の結果、大学基準適合認定を受ける。
- 平成 29 年 3 月 文学部英語英米文学科、国文学科を廃止
- 4 月 人間科学部生活科学科学生募集停止
人間科学部に都市生活学科、食物栄養学科を設置

3. 設置する学校、学部学科、入学定員等

(1) 神戸松蔭女子学院大学大学院

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

入学定員

文学研究科	博士課程	言語科学専攻	2人
	修士課程	英語学専攻	5人

国語国文学専攻	5人
心理学専攻	10人
合計	22人

(2) 神戸松蔭女子学院大学

所在地:657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

入学定員

文学部	英語学科	110人
	英語 ^{プロ} フェッショナル専修	
	グローバルコミュニケーション専修	
	日本語日本文化学科	60人
	総合文芸学科	50人
	小計	220人
人間科学部	心理学科	70人
	都市生活学科	100人
	食物栄養学科	60人
	子ども発達学科	80人
	ファッション・ハウジングデザイン学科	60人
	小計	370人
	合計	590人

(3) 松蔭高等学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

全日制課程普通科	350人
----------	------

(4) 松蔭中学校

所在地:657-0805 神戸市灘区青谷町3丁目4番47号

入学定員

315人

4. 役員（理事・監事）に関する事項

(1) 理事

定数：11人以上16人以内 現員：13人

理事長	中村 豊
常務理事	郡司 隆男（院長）
〃	待田 昌二（学長）
〃	浅井 宣光（校長）
〃	永井 良昭（法人事務局長）
〃	芳田 克巳
〃	番場 靖子
〃	竹田 美知
〃	竹中 康之

〃 上野智子
 〃 澤田知之
 理事 川崎紘平
 〃 吉村厚子

(2) 監 事

定数：2人以上4人以内 現員：2人
 監 事 田嶋紀雄
 〃 山口純

5. 評議員に関する事項

定数：23人以上37人以内 現員：29人

6. 教職員に関する事項

(1) 教 員

	(専任)	(常勤講師)	(非常勤講師)
大学 文学部	29人	—	101人
大学 人間科学部	53人	—	127人
高等学校	29人	1人	6人
中学校	20人	5人	16人
計	131人	6人	250人

(2018年5月1日現在)

(2) 職 員

	(専任)	(非常勤職員)	(派遣職員)
法人本部	(*7人)	—	—
大 学	75人	31人	26人
高等学校	4人	8人	0人
中学校	3人	1人	1人
計	89人	40人	27人

*法人本部職員は、大学、高等学校の専任職員が兼務 (2018年5月1日現在)

7. 校地・校舎等面積

(1) 校地等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六甲キャンパス	60,461.43
野外訓練場	16,049.00
松蔭大学会館	1,899.35
大山ロッジ	32,853.00
青谷キャンパス	17,997.16
青谷寮	531.91
赤倉寮	9,088.00
千と勢会館	795.46
合 計	139,675.31

(2)校舎等面積

(名 称)	(面 積 m ²)
六甲キャンパス	34,266.26
松蔭大学会館	5,064.71
大山ロッジ	686.26
青谷キャンパス	21,975.89
青 谷 寮	331.53
赤 倉 寮	995.76
千と勢会館	936.09
合 計	64,256.50

II 事業の概要

1. 法人

(1) 理事会、評議員会、常務理事会関係

学院運営のため、理事会、評議員会、常務理事会を以下のとおり開催した。開催日時、議案については次のとおり。

(理事会:3回開催、評議員会:3回開催、常務理事会:10回開催)

【理事会】

① 日 時 平成30年5月25日(金) 午後4時45分～6時

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 評議員の退任・重任・就任の件

第2号議案 理事の退任・就任の件

第3号議案 常務理事の退任・就任の件

第4号議案 監事の辞任の件

第5号議案 決算の件

第6号議案 事業報告の件

② 日 時 平成31年3月8日(金) 午後6時20分～6時45分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 2019(平成31)年度学則変更の件

第2号議案 新学部新学科設置に係る寄附行為変更の件

③ 日 時 平成31年3月29日(金) 午後4時15分～4時45分、6時～6時40分

場 所 神戸ポートピアホテル 南館16階 シルビアの間

議 案

第1号議案 理事選任の件

第2号議案 2019年度高等学校校則変更の件

第3号議案 2019年度大学院学則変更の件

第4号議案 六甲山セミナーハウス処分の件

第5号議案 青谷寮処分の件

第6号議案 2019年度事業計画の件

第7号議案 2019年度予算の件

【評議員会】

① 日 時 平成30年5月25日(金) 午後6時10分～6時50分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 評議員の退任・重任・就任の件

第2号議案 監事の辞任の件

② 日 時 平成31年3月8日(金) 午後6時～6時15分

場 所 神戸松蔭女子学院大学第一会議室

議 案

第1号議案 2019(平成31)年度学則変更の件

第2号議案 新学部新学科設置に係る寄附行為変更の件

③ 日 時 平成31年3月29日(金) 午後4時50分～6時

場 所 神戸ポートピアホテル南館16階シルビアの間

議 案

第1号議案 2019年度高等学校校則変更の件

第2号議案 2019年度大学院学則変更の件

第3号議案 六甲山セミナーハウス処分の件

第4号議案 青谷寮処分の件

第5号議案 2019年度事業計画の件

第6号議案 2019年度予算の件

【常務理事会】

常務理事会は、原則として月1回開催し、学院の管理運営面の日常業務の処理に当たっている。開催日時・議案等については省略する。

なお、常務理事会の議決事項及び審議事項は次のとおりである。

(議決事項)

1. 教職員の人事、服務、給与及び諸手当の執行に関する事項
2. 職員の採用、昇任、昇格、異動、退職に関する事項
3. 予算の執行に関する事項
4. 全学に共通し、かつ、理事会の議決を必要としない諸業務の執行及び諸規程に関する事項
5. その他理事会から特に委任された事項

(審議事項)

1. 理事会に提案する事項
2. 建設計画に関する事項
3. 教職員組合との協定に関する事項
4. その他理事会から特に付託された事項

(2) 財務関係（予算編成の基本的方針等）

教育研究経費の充実、教育設備のリニューアルを積極的に推し進めるべく、30年度も収入増加、管理経費の削減など、収支改善への努力を継続して行なった。また設備投資ではWi-Fi環境の整備は完了し、学内からのアクセスは極めて便利になり、学生からの評価も高まった。4号館学生ホールの改修はプラン再検討のため実施時期は未定になったが、前年度に引続き、教室の改修及び洗面所等の共用施設の改修も進めるなど、教育研究設備の充実と向上に加えて教育環境の向上をめざした。

2. 中学校・高等学校

(1) 執行部関係

校 長	浅 井 宣 光
副 校 長	番 場 靖 子
副 校 長	芳 田 克 巳
教 務 部 長	大 槻 泰 史
総 務 部 長	若 木 浩 幸
生 徒 部 長	中 川 雅 博
宗 教 部 長	赤 尾 友 規
進路指導部長	佐々木 聡
入試広報室部長	小 林 裕 典
入試広報室副部長	澤 田 知 之
事 務 長	平 田 健 二
事 務 次 長	岡 田 知 子

(2) 職員会議、その他重要な委員会等の開催状況

6日制授業（土曜授業）の再開により、教員は通常授業日については、週1日の勤務を要しない日（研究日）を火木金曜日に振り分けて設定した。そのため職員会議をはじめ定例の会議は月水曜日に開催した。全員が出席する権利と義務を有する職員会議は、毎月1回の定例会議および学期始めと学期末に報告のための会議をもった。また、各学期の終わりには成績会議を開催し、3学期末には学年の修了・進級と中学校卒業認定を行った。他の主要会議として、校務部長・学年主任合同会議（校長、副校長、教務部長、宗教部長、生徒部長、総務部長、6学年主任による。週1回、日常の学校運営に関する事項を討議、決定する）、教科主任会議（月1回）、各校務部会（月1回）、教科会議（月1回）を定例の会議として行った。入試委員会は、入試制度、広報や説明会運営に関する概要を立案した。将来構想について検討する全学教育構想委員会は、下部組織として6日制活動小委員会、カリキュラム小委員会、ICT小委員会とともに、定期的で開催した。

(3) 2018年度の学校運営方針とその具体化

下記の①～④を学校運営方針とし、年間を通じて教育活動の柱とした。

① スクールモットー「Open Heart, Open Mind」(心を開いて、思いを自由にして)の精神を日々の教育実践に生かす。

スクールモットーについては、学院モットー「一粒のからし種」と共に、機会があるたびに生徒に語り掛けた。グローバル社会において求められる姿勢と、自ら積極的に人生を歩む心構えを育む教育活動を行うことを常に意識するよう努めた。

② 「英語の松蔭」のブランディングをはかり、英語教育・グローバル教育を推進するとともに、希望進路に見合う学力の定着をはかる。

前述の全学教育構想委員会内の学外連携小委員会を、英語・グローバルチームに改編した。このチームは、本校の英語・グローバル教育について様々なアイデアを検討し、その実現を図ることを目的としている。GTEC（民間の英語力検定。スコアで表される）の導入や、CEFR（外国語レベルの対照表）による英語力の目標設定、海外での英語・社会研修などの新たな取り組みが具体化しつつある。また、高校進学に際して「中学3年基礎学力判定試験受験」を実施し、

高校入試同様の緊張感をもたせ、中高一貫校の「中だるみ」の予防策も導入した。

③女性のリーダーシップを育み、主体的な生き方を育むプロジェクト型学習の手法を Blue Earth Project だけでなく、学校行事等の取り組みに導入し、キャリア教育を推進する。

Blue Earth Project の取り組みを、高校全学年で初めて行った。これにより高3 学年の一部生徒のプログラム、学校全体のプログラムへと発展した。その手法を、バザーをはじめとして様々な学校行事に導入し、主体的に取り組む生徒の姿勢を育むことを課題とした。

④生徒の安全を絶対のものとして確保し、保護者の安心感を高める措置を講じる。

避難訓練の実施など、大災害への備えを図るとともに、校門通過を保護者に知らせる「ミマモルメ」の導入などを実現した。今後の入学生に義務付ける方向で検討している。また、夏期の熱中症対策も実施し、WBGT(湿球黒球温度)測定値による「暑さの指数」を計測し、必要な場合には、グラウンドや体育館でのクラブ活動を中止することとした。また、校内にミストシャワーを2か所設置した。

(4) 教学関係

20年ぶりの6日制授業(土曜授業)の再開により、平日の月～金曜日は6校時まで、土曜日は3校時までの授業を実施した。これに伴い教育課程を一部変更し、中学に「国語力」授業を加え、毎土曜日は英語、数学、国語力の時間割を組んだ。高校は、土曜日3校時を「課題学習」の時間とし、各自が個々の課題に取り組む時間とした。

①各学年の活動

自ら学ぶ姿勢をつくり「自学自習の習慣」を身につけることを学校全体の目標とし、中学高校の学年ごとに目標を設定した。これは各学年の生徒の実情に即した指導を行ううえでの指針である。

中学1年は学年目標を「自他を大切に」とし、「自分」を高め「他者」を思いやる生徒の育成をはかった。生活習慣を再確認し、学習習慣につなげるために、自学自習ノートの提出や毎朝礼前5分間の手帳記入を実施した。放課後には、希望者対象の英語教室などを実施したほか、定期考査での未到達者を対象に、5教科の補い学習(指名制)を行った。また、希望者を対象とした「理科実験教室」「英語でクッキング」「English Roomでの英会話」など、様々なプログラムを企画し、学習意欲の向上に努めた。総合的な学習の時間では、「マナー」をテーマに、形のマナーとして小笠原流礼法を、心のマナーとしてスクールカウンセラーからの指導を受けた。

中学2年は学年目標を、昨年から継続して「人はそれぞれの歌を持つ(ネイティブアメリカンの言葉)」と「学校は間違ふところ」の言葉で示した。人との比較ではなく、昨日の自分よりも今日の自分を少しでも前進することをポイントとして指導した。毎朝礼前5分間の手帳記入により、スケジュールやその日の課題の確認により、学習の土台作りを心がけた。

総合的な学習の時間では、「いのち」をテーマとした。乳幼児とその母親をむかえて交流する「赤ちゃん先生、ようこそ!」やダウン症の親子と触れ合うプログラム、高齢者の問題など幅広い視点から「いのち」について考えた。

中学3年は学年目標を「Sense of Wonder ～好奇心旺盛に～」とし、何事にもチャレンジ精神をもって進むよう指導した。学習指導では、毎朝礼前の5分間を「学びのとき」として各教科のドリル学習に取り組んだ。また連絡事項や宿題などを手帳に書く習慣作りにより、時間管理を促し、学習する姿勢の育成に結びつけた。総合的な学習の時間は、「平和」をテーマ

として「戦争体験を聴く会」、「被爆者講演会」、修学旅行での長崎訪問などにより学習を深め、各自が「平和への提言」を作成した。

高校1年生は「愛」の言葉を学年目標とした。神様が私たち一人ひとりを愛してくださっていることを覚え、昨日より今日、今日より明日、少しずつ自分を高める努力を重ねることを願った。毎朝の「学びのとき」は、5教科の学習のほか、英検や漢検対策、「天声人語」の書き写しに取り組んだ。大学新入試制度となる学年として、各自のポートフォリオ作成に取り組んだほか、「課題学習」の時間には、クラスごとにオンライン英会話を実施した。「高校生のための学びの基礎診断」の実施を控え、自学自習型の課題冊子への取り組みなど、自学自習の習慣作りにも努めた。総合学習のテーマは「環境」（後述）および「進路学習」とし、新テストの情報収集とともに、個々の進路について考える機会をもった。

高校2年生は学年目標として、「学べ！目指せ！起きよ、目覚めよ、歩き続けよ」という一文を生徒に語り続けた。学習面では、スケジュール帳を活用し、予習→授業→復習のサイクルの確立とともに学力の定着をはかった。志望理由書の論述など「書く」学習も推進した。総合学習のテーマは「震災学習」と「進路学習」とした。震災学習は、東北方面への修学旅行の機会を利用した。「進路学習」については、受験までの計画立て、志望理由書や受験報告書作成などの取り組みを実施した。

高校3年生は学年目標として「よく学び、よく生きよ」を設定した。大学進学を目前に、最高の努力と最善の選択をすることを心がけようと訴えた。

学習指導では、始業前の「朝学」に始まる個々の学習により学力の定着をはかった。2学期以降の進路確定者については、英検や漢検など検定受験を義務づけ、定期的に学習内容を提出させた。総合学習では、意見文の書き方に関する講座を受講した後、環境問題に関する講演会を実施し、講演内容の要約や自分の意見をまとめた。またディベートにも取り組んだ。

② 英語教育

正課授業と課外の英検対策講座、補習により、4技能（聞く、話す、読む、書く）の総合的な英語力向上をはかった。英検受験を全員に課し、特に中3、高1の英語特別クラス生徒については、それぞれの学年修了時には全員が中3で準2級、高1で2級取得を目標とした。全校としての目標を、高校卒業までの英検2級取得とした。また、大学進学対策としてGTEC受験を高1、高2に導入した。1月の英検全校受験では、2級取得済の生徒は、TOEICまたはGTECを選択して受験した。

英語特別クラス（中3、高1）では、書くことと話すことを同義としてエッセイライティングのトレーニングを行い、インターネットを利用したオンライン英会話も授業で実施した。オンライン英会話は、高1全クラスの土曜日「課題学習」の時間でも実施した。ネイティブ教員（英語特別クラス副担任）は、担当クラスだけでなく、各学年の日本人教員とのTT授業も担当し、様々な機会に、生徒が英語に触れる機会を増やした。中学各学年の英語スピーチ・レシテーションコンテスト開催など、学校をあげて英語学習意欲を喚起させる取り組みも行った。

毎週水曜日放課後の英検対策講座は、希望者と英語特別クラス生徒が受講し、準1級から3級までの講座を開講した。インターナショナルスクールである聖ミカエル国際学校の土曜学校スクールアシスタントは、他校にはない特色プログラムである。英検2級以上の取得を資格として、毎学期に4～5名の高校生が参加した。

なお、中学入試では他校に先駆けて英語入試（英語1科目入試）を導入し、この制度を利用した入学生や、英語学習に意欲的な生徒を対象として、英語による調理実習“Welcome Cooking”および“English Boot Camp”を実施した。2018年4月に開室したEnglish Roomは、昼休みお

よび放課後にスタッフが在室し、気軽に英会話を楽しむ機会を提供した。English Room スタッフは、英語圏出身の外国人のほか、バイリンガルとして育った日本人学生、神戸大学への留学生など多様で、異文化交流の場でもあった。

取り組みの成果は、高3秋のTOEIC950点を取得した生徒（留学経験なし）や、以下の英検取得者数の推移に現れている。なお、学校を英検本会場として提供したことや、内部進学生グローバル特待制度（中学卒業までの2級取得者は進学金半額を免除）の導入も間接的な刺激となった。下表は、過去4年間の英検取得者数の推移である。

年度	在籍生徒数	中学 準2級	中学 2級	中高 2級	中高 準1級	中高 1級
2015年度	中学408名 高校527名	37	6	66	0	0
2016年度	中学394名 高校499名	48	6	86	4	0
2017年度	中学364名 高校418名	59	9	97	5	0
2018年度	中学309名 高校403名	42	7	117	5	1

③ 国際交流とグローバル教育

夏休み期間中に、中3～高2から選ばれた短期語学留学生5名をニュージーランドの姉妹校 St. Peters School へ派遣した。同校との間の春季交換留学制度では、交換留学生2名ずつが約3週間、両校に通学し、ホームステイによる現地生活を送った。

韓国の姉妹校信明高校および聖明女子中学校へ、夏休み中に中学3年生および高校1、2年生20名を派遣し、6回目の海外短期異文化研修を実施した。多数の応募者の中から、筆記試験、面接により選抜された派遣生は、現地での授業交流、ホームステイにより多くの学びを得た。韓国側からは、7月に聖明女子中学校からの訪問団が来校し、中学生交流を実施した。1月には、信明高校からの訪問団を受け入れ、授業や部活動での交流プログラムを実施したほか、ホームステイ受け入れや中高生徒全員による日韓両国語による歓迎式典・礼拝を行った。このことが刺激となって韓国語学習を独自に始める生徒が増えていること、学校の国際交流プログラムを通じたグローバル意識の広がりといえる。なお、ニュージーランド、韓国へ派遣生徒に対して、地理、歴史、文化、言語に関する集中事前学習を実施した。

④ リーダーシップを育み、主体的に生きる姿勢を育むプロジェクト型学習

PBL（課題解決学習）やプロジェクト型学習として高校のBlue Earth Projectの取り組みがある。2018年度の活動テーマは、プラスチックごみがもたらす海洋生物の多様性の危機や、地球温暖化であった。高校各学年での取り組みは、まず高校1年生全員への、環境問題に関するオリエンテーションとして、卒業生による「Blue Earth 塾」をワークショップ形式で実施した。その後、高1、高2の希望する生徒から構成されるチームYと、高3の3学期の希望者のグループにより、活動が行われた。

チームY（高1、高2）は、「STOP 温暖化～COOL CHOICE—海にいいこと、はじめよう—」をスローガンとし、8月30日、神戸三宮センター街アーケード内で啓発イベントを開催した。10月21日には、高1生18名が、神奈川県横浜市での「東京湾大感謝祭」（環境省、国土交通省など協賛）にブース出展し、地元高校生とともに活動した。

引き続いて高3生16名が、須磨海浜水族園、イオンモール神戸南、神戸ハーバーランドumieで啓発イベントを行った。神戸ハーバーランドのイベントでは、チームYのメンバーのほか、北鎌倉女子学園高校（神奈川県）、聖カピタニオ女子高校（愛知県）、富山国際大学付属高校（富山県）の生徒も参加し、学年や高校の枠組みを超えた活動となった。

年度末の春休みには、モナコのチャリティー団体からの招待で、チームYの高1生徒3名が引率教員2名と共に現地を訪問し、地元のインターナショナルスクール生と交流した。韓国の姉妹校、信明高校でも本校に刺激を受けた生徒たちが活動しており、国内外に広がりを見せている。また、高3のメンバーは、東京幕張メッセでの啓発イベントに参加した後、環境省を訪問し、副大臣等関係者に対して活動報告を行った。

⑤ 補習および課外講座など

6日制授業再開で平日7校時の授業がなくなり、放課後に課外講座を設定した。月曜日は校内予備校（高校生対象）および中学各学年の校内塾「放課後アドバンス塾」、水曜日は上述の英検対策講座、土曜日は校内予備校（高校生対象）を開講した。

夏期休業中の補習については、前半と後半の1週間ずつを補習期間として設定し、高校生対象の進学補習、中学生対象の補習を実施した。なお、中学生は、定期考査の成績未到達者を対象とした補いの補習も実施した。オンライン学習サービス「スタディーサプリ」については、中学高校ともに希望する生徒が利用した。

⑥ 行事や特色あるプログラム

宿泊行事として、中1鉢伏高原の宿泊施設を利用する山のキャンプ、中2徳島県阿南のYMCA海洋センターでの海洋キャンプを行った。中3修学旅行は、北九州方面を訪問し、総合的な学習のテーマである平和学習や班別研修を長崎で実施したほか、有田焼の陶芸プログラムも加え、北九州の自然、歴史、文化を学ぶ研修旅行とした。高2修学旅行は、北東北方面とし、津波により大きな被害を受けた田老などの視察のほか、被災者による講演を聴き、事前事後の学習によって学びと気付きを深めた。なお、中3、高2修学旅行に合わせて、他学年のバス利用の校外学習も同時期に実施し、学年ごとに丹波篠山、淡路島、奈良方面を訪問した。冬休み中の希望者による戸隠スキーキャンプは、参加希望者が少ないため中止した。なお、六甲山での中学新入生の宿泊オリエンテーションキャンプは、2018年度より廃止した。構成的グループエンカウンターなどのプログラムについては、オリエンテーション期間等に実施した。

生徒会の自主的な運営のもとで文化祭、球技大会、体育祭を行った。校外学習として、1学期には六甲山系への登山を中心とした遠足を計画していたが、雨天により中止した。全校生で芸術を楽しむ団体鑑賞では、吹奏楽（フィルハーモニック大阪）の音色を楽しんだ。

中学では、学年ごとの英語スピーチ・レシテーションコンテスト、聖歌コンクール（合唱コンクール）を開催した。百人一首大会は、中1から高1までの各学年ごとに行った。

高校生対象の講演会や特別講座として、放送作家による「お笑い芸人に学ぶコミュニケーション術」や、古典装束鑑賞会を開催した。

中学生対象の特色プログラムとして、兵庫県後援の「ピッコロ・わくわくステージ」の演劇鑑賞や中2のシンクロナイズドスイミング授業、なぎなた授業や外部講師によるダンス授業を行った。また、希望者を対象に放課後や休暇中に、理科実験教室、カエルの解剖や星空観察合宿などを実施した。

⑦ 学校生活意欲と学級満足度調査

本校独自の「学校生活アンケート」を定期的実施し、学校適応感尺度および、いじめなどのトラブルに関する生徒の主観的な判断の把握に努めた。結果については、生徒個人面談等に有効利用できた。

⑧ 特別支援教育

特別支援教育委員会は、特別なニーズがある生徒に対する支援を検討し、個々に応じた指導を行った。特に発達障害の特性を持つ生徒については、ソーシャルスキルトレーニングを実施

する個別指導教室を開講し、継続指導を行った。認知訓練の教材を使用した特別支援教室も並行して運営しており、幅広い生徒支援が可能とした。

⑨ 入学生数

2018年4月6日午前、87名の中学新入生を迎えて中学入学式を、午後には12名の高校新入生を迎えて入学祝福式を挙行し、それぞれ新入生代表が宣誓を行った。また翌日には、神戸聖ミカエ教会で入学感謝礼拝を行い、中学、高校の新入生、保護者が出席した。

⑩ 卒業者数

2019(平成30)年1月28日の高等学校卒業判定会議において、2018年度高校3年生(H71回生)139名の卒業が認定され、3月1日、第71回高等学校卒業式を挙行した。その前日には、神戸聖ミカエル教会で卒業感謝礼拝を行った。また、3月22日、中学校卒業式(第72回)を挙行した。

(5) 課外活動

① 【運動部9部】

アーチェリー部、水泳部、ソフトテニス部、ソフトボール部、卓球部、テニス部、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部

【文化部11部-18部門】

アート部(写真・美術・マンガ研究)、演劇部、器楽・弦楽部(マンドリン・バイオリンアンサンブル)、コーラス部、食物部、箏曲部、ダンス部(バレエ研究・モダンダンス)、伝統文化部(華道・茶道・書道)、ハンドベル部、バンド部(軽音楽・フォークソング)、放送部

【同好会3部】ESS、少林寺拳法、陸上

② 全国大会に出場した部活動

- ・アーチェリー部
(インターハイ、全国選抜大会、全日本小学生・中学生アーチェリー選手権大会)
- ・少林寺拳法(全国少林寺拳法大会・・・中学)
- ・放送部(NHK全国放送コンテスト・・・高校)(全国高等学校総合文化祭)

③ 全国大会に出場した個人の活動

- ・空手(第73回国民体育大会(福井国体))
- ・アーティスティックスイミング(全国JOCジュニアオリンピックカップ)

(6) 宗教教育

① 全校礼拝について

中学、高校で週一回の「朝の全校礼拝」を行っている。礼拝でのお話は、チャプレンや宗教部担当教員だけでなく、各学年の教員も参加し、自らの思いを言葉にして生徒へ語りかけた。聖歌を皆で声を合わせ、大きな声で歌うことも祈りの一つとし、中学の「聖歌コンクール」も実施している。松蔭での礼拝は、生徒にとってより身近なものになってきているようである。有志の教職員と生徒による「早朝礼拝」、毎週金曜日昼休みの「ヌーンサービス」もレオノラチャペルで行われた。月一回、「ヌーンサービス」時に行っている「お誕生日礼拝」は、該当者に案内を兼ねたお誕生日の案内には、「お誕生日カード」を送るとともに、図書館の協力により「あなたへのお勧め図書紹介」も同封して送っている。毎月多数の生徒が出席した。

4月26日 イースター礼拝

- 講話 小林 尚明 神戸教区主教
- 6月4日 1学期宗教週間・特別礼拝
講話 遠藤 洋介 先生 (神戸聖ミカエル教会・牧師補)
- 11月14日 2学期宗教週間・特別礼拝
講話 吉村 誠司 氏 (災害救援 NGO ヒューマンソール神戸代表)
- 11月17日 逝去者記念礼拝
- 12月20日 クリスマス燭火礼拝
講話 野間 光顕 チャプレン (神戸国際大学チャプレン)
クリスマス祝会 (レオノラチャペルでのミニコンサート)
(出演: ハンドベル部・バイオリンアンサンブル部・フォークソング部・軽音楽部・コーラス部 司会: 放送部中学1年生)
- 1月17日 阪神淡路大震災記念礼拝 (朝、講堂にて)
震災記念の祈り (放課後、レオノラチャペルと記念樹前にて)
- ② 1学期宗教週間 (6月4日から6月12日)
図書館チャリティ・ブックバザー、絵本ボランティア (図書館との共催)、
にじ作業所パン販売、ビニール袋・おしり拭き布の回収 (施設寄贈用)、
おしり拭き布の裁断ボランティア、手作りろうそくづくり、
バイオリンアンサンブル部チャペルコンサート、コーラス部チャペルコンサート、
特別礼拝
- ③ 2学期宗教週間 (11月12日～17日)
図書館チャリティ・ブックバザー (図書館との共催)、
人権映画鑑賞『ユダヤ人を救った動物園』～アントニオが愛した命～の上映、
にじ作業所パン販売、ビニール袋・おしり拭き布の回収 (施設寄贈用)、
おしり拭き布の裁断ボランティア、松ぼっくりツリーづくり、
聖ミカエル教会バザーへの参加、聖ヨハネ教会バザーへの参加、
特別礼拝
- ④ その他活動
- * 特別養護老人ホーム「きしろ荘」関係
7月21日 喫茶ボランティア
(3月の喫茶ボランティアは、昨年度と同様、インフルエンザ流行のため中止とした。)
- * 児童養護施設「真生乳児院」・育児体験
5月～7月と10～12月に、全学年を対象に募集。育児体験実習を実施。
- * 自然災害支援関連
7月14日 支援売店 (アイスの実ソーダと冷たい飲み物の販売)
(オープンスクールの日開催)
- ⑤ 教職員人権研修について
- * 8月31日 人権講演会
講師: 青野 正明 氏 (桃山学院大学教養学部教授・朝鮮近現代史専攻)
演題: 「ナショナリズムの幻想を超えて」
～グローバル化に適応する社会、多文化共生社会への道～

(7) 生徒募集対策・入試関係

① 校外入試説明会への参画、校内説明会の実施状況

4月8日(日)	新聞社主催「私立中学受験フェスティバル」(グランフロント大阪)
4月15日(日)	新聞社主催「私立中高入試報告会」(私学会館)
4月21日(金)	新聞社主催「私立中高進学相談会」(西宮フレンテホール)
4月22日(日)	芦研主催「私立中学入試説明会」(芦屋ルナホール)
5月13日(日)	新聞社主催「中高西宮地区進学相談会」(西宮フレンテホール)
5月16日(水)	公文 私立中学合同受験セミナー(公文 神戸事務局)
5月19日(土)	日能研主催「学校見学会」(校内)
6月9日(土)	創学アカデミー主催「学校見学会」(校内)
6月10日(日)	芦研模試会場・入試結果報告会(校内)
6月10日(日)	新聞社主催「中高 芦屋地区進学相談会」(芦屋ラポルテホール)
6月23日(土)	「授業見学会」(校内)
7月8日(日)	新聞社主催「私立中学高校進学サポートフェア」(西宮フレンテホール)
7月14日(土)	オープンスクール(校内)
7月15日(日)	女子教育セッション<愛徳・小林聖心・甲子園・甲南女子・神戸海星・神戸国際・神戸女学院・神戸山手・親和・園田・武庫川・百合・松蔭>(神戸三宮東急REIホテル)
7月26日(木)	海外子女教育振興財団主催「帰国生のための学校説明会・相談会」(グランキューブ大阪)
7月29日(日)	新聞社主催「播磨リビング私立中高進学相談会」(加古川プラザホテル)
8月6日(日)	私学連合会主催「兵庫私学フェスティバル 西宮会場」(ホテルヒューイット甲子園)
8月10日(木)	英語でクッキング!(校内)
8月18日(土)～ 19日(日)	私学連合会主催「私学フェスティバル 神戸会場」(ホテルクラウンパレス神戸)
9月8日(土)	高校説明会・見学会
9月8日(土)	明光義塾主催「兵庫進学相談会」(神戸サンボーホール)
9月9日(日)	朋友ヴィッツ主催「私立中高説明会」(武庫之荘トレピエ)
9月9日(日)	新聞社主催「兵庫県私立中学高等学校展」(甲南大学西宮キャンパス)
9月12日(水)	塾対象入試説明会(校内)
9月15日(土)	第1回学校説明会(校内)
9月17日(月祝)	進学塾アイズ主催「私立中高進学説明会」(三田ホテル)
9月22日(土)	ECCホームティーチャー先生方対象の説明会(校内)
9月26日(水)	新聞社主催「私立中高進学相談会」(私学会館)
9月26日(木)	神戸市 私立高校入試合同説明会(神戸市総合教育センター)
10月6日(土)	高校説明会・見学会(9月説明会、警報休校のため追加設定)
10月9日(木)	加印地区高校入試合同説明会(加古川市人権文化センター)
10月10日(水)	加古川説明会(加古川まちづくりセンター)
10月12日(金)	阪神西宮説明会(西宮市民会館)

10月14日(日)	芦研模試会場・第2回学校説明会(校内)
10月17日(水)	三田説明会(三田市商工会議所)
10月19日(金)	宝塚説明会(宝塚ソリオホール)
10月20日(土)	ジュニア・イングリッシュ・ディキャンプ
10月21日(日)	新聞社主催「私立中高進学相談会 in 西宮」(西宮フレンテホール)
10月27日(土)	第3回学校説明会(校内)
10月29日(月)	西神南説明会(西神南セリオホール)
11月18日(日)	プレテスト(校内)
11月24日(土)	高校説明会・見学会(校内)
12月1日(土)	中学入試プレテスト アドバイス会(校内)
12月9日(日)	高校説明会・見学会(校内)
12月15日(土)	クリスマスの集い(校内)
12月22日(土)	個別入試相談会(校内)
12月15日～ 1月18日	A方式入試・英語入試 願書受付
12月15日～ 1月21日	B方式入試 願書受付
1月19日(土)	午前：A方式入試、午後：英語入試
1月20日(日)	A方式入試・英語入試合格者発表(掲示)
1月21日(月)	B方式入試
1月22日(火)	B方式入試合格者発表(ホームページ・掲示)
1月26日(土)	合格者登校日(制服採寸・学用品購入等)
1月9日(土)	高校入試
2月16日(土)	高校入学予定者 登校日
3月31日(日)	「神戸市東地区女子中高一貫校合同説明会」 (神戸海星・甲南女子・親和・松蔭)(東灘区民センター)

② 中学入試オープンスクール参加者組数・6年組数の推移

英語を主体とした本校の特色教育と広報施策の充実により、オープンスクール参加者数は3年前の水準に回復した。

年度	組数	6年生組数
2015年度	169	107
2016年度	134	89
2017年度	141	82
2018年度	172	110

③ 入試担当者による中学校訪問回数(延べ)

1学期153校、2学期139校を訪問し、資料配付を依頼した。これにより、県内中3女子生徒13,000名に本校の入試案内が届いたことになる。

④ 2019 年度中学入試結果

	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
A方式入試	約 160	94	93	91	*91
英語入試		33	32	22	
B方式入試	約 20	114	55	52	8
合計	約 180	241	180	165	99

*91名のうち、英語入試のみ受験での入学者は3名。

⑤ 2019 年度高校専願入試

募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
約 20	15	15	15	15

⑥ 2019 年度中学募集状況および高校募集状況

2018年度の兵庫県内小学6年生児童数は49,043名で、前年(48,113名)比930名増であった。入試統一日午前の受験者数により算出した、いわゆる中学受験率は、前年の10.2%から10.7%と増加した。この影響を受けて、いくつかの女子中高一貫校は堅実な入学生数を確保し、本校も前年比1割増となった。しかし、女子受験生の難関大学の付属・継続校や共学校への志向は大きい。新6年生および新5年生児童数が今年度並みである。次年度入試において、入学後の魅力ある教育内容を打ち出しておくことは喫緊の課題である。

高校入試においては、昨年度より募集定員を20名とした。過年度の入学生の出身中学校からの入学も増加しつつある。過去2年の高校入学生数(2017年度10名、2018年度12名)は徐々に増加している。定員を確保するために、広報活動をさらに拡充する。

(8) 進路関係

① 高3の進路状況全般(過去3カ年推移)

	2019年度入試	2018年度入試	2017年度入試
神戸松蔭女子学院大学(特薦)	41	40	58
外部大学	82	91	118
外部短大	5	8	8
専門学校・留学	7	5	9
その他	4	7	5
卒業生数	139	151	198

松蔭特薦専願は39名であった。多くの生徒が内部進学を肯定的にとらえている様子であった。一方、併願合格者10名のうち、実際の進学者は2名であった。

② 2019 年度入試での外部大学等進学者数一覧

学 校 名	数	学 校 名	数	学 校 名	数
神戸松蔭女子学院大	42	大阪国際大	1	明海大	1
神戸大	1	大阪成蹊大	1	明治学院大	2
立教大	4	岡山理科大	1	大和大	1
関西大	9	京都造形芸術大	3	大阪音楽大短大部	1
関西学院大	8	甲南女子大	4	関西外国語大短大	1
京都産業大	1	神戸芸術工科大	1	嵯峨美術短大	1
近畿大	1	神戸女子大	1	夙川学院短期大	1
甲南大	9	神戸常盤大	2	聖和短大	1
神戸学院大	2	神戸薬科大	1	大阪文化服装学院	1
桃山学院大	1	嵯峨美術大	1	京都栄養医療専門学校	1
関西外国語大	1	女子美術大	1	神戸医療福祉専門学校三田校	1
同志社女子大	4	園田学園女子大	2	神戸ベルェベル美容専門学校	1
神戸女学院大	8	天理大	1	兵庫栄養調理製菓専門学校	1
跡見学園女子大	1	梅花女子大	1	兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科衛生士学院	1
大阪学院大	1	姫路獨協大	2	ミス・パリエステティック専門学校	1
大阪芸術大	1	兵庫医療大	2	その他	4

大規模大学の定員管理厳格化や世間一般の安全志向を受け、難関中堅私大の難化傾向が続いており、そのことが本校の進学実績にかなり大きな影響を及ぼしている。その中で、神戸大、関西大、関西学院大、京都産業大、甲南大、同志社女子大などにAO入試で合格者を出すことができたのは、今後につながる成果であると考えられる。

(9) 刊行物

『松蔭校長室だより』（校長、随時）、『学校報松蔭』、『ハンドブック』（以上、総務部）、『青谷』（宗教部）、『航跡』（生徒会）、『PTAニュース』（PTA、各学期）等。

(10) 社会貢献・地域貢献

公立中学校では、「トライやるウィーク」が実施されており、依頼を受け、初めて地元公立中学生1名を図書館司書体験で受け入れた。なお、図書館は「サタデーライブラリー」として、毎週土曜日、近隣の小学生および女子中学生に開放している。

3. 大学

(1) 執行部関係

学	長	待	田	昌	二					
副	学	長	竹	田	美	知				
副	学	長	竹	中	康	之				
学	生	部	長	中	村	博	文			
教	務	部	長	柏	本	吉	章			
図	書	館	長	松	田	謙	次	郎		
入	試	部	長	古	家	伸	一			
宗	教	主	事	山	内	啓	子			
文	学	部	長	田	中	ま	き			
人	間	科	学	部	長	坂	本	真	佐	哉
事	務	局	長	永	井	良	昭			

(2) 教授会開催状況

教授会は専任講師以上の専任教員で構成し、文学部、人間科学部合同で開催している。原則第1木曜日の開催としているが、審議事項や学事日程に応じて別日程の開催とすることもあり、年間の開催日程を学内に周知している。2018年度は14回開催し、次の事項を審議した。

- ① 学生の入学、卒業および課程の修了
- ② 学位の授与
- ③ 入学試験の合否判定
- ④ 科目等履修生の受入および履修単位認定
- ⑤ 学則改正
- ⑥ 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの

(3) 教学マネジメント会議

教学マネジメント会議は、教学に関わる中長期計画の策定や学部・大学院全体の教育課程の編成・実施を審議している。2018年度は、2019年度カリキュラムの審議、教育職員免許法等の改正による教職課程再課程認定に係るカリキュラム審議、初年次教育科目と卒業研究の成績評価データを基に評価の公平性、学科間・担当者間の評価基準の適切性の検証と審議を行う等、4回の会合を持った。

(4) 教学関係委員会開催状況

学長が主宰する委員会として独立委員会を、教育行政部門が所管する委員会として専門委員会をおいている。2018年度の各委員会開催状況は次のとおり。

独立委員会	
教学委員会	45回
入試総務委員会	45回
国際交流委員会	10回
自己点検・評価運営委員会	2回
広報委員会	6回

公開講座運営委員会	2回
個人情報保護委員会	0回
全学共通教育委員会	1回
教職教育委員会	2回
専門委員会	
学生部委員会	0回
人事委員会	17回
教務委員会	11回
図書館運営委員会	6回
学術研究委員会	2回
公開講座運営委員会	2回
キリスト教センター委員会	2回
FD委員会	9回
ハラスメント防止対策委員会	2回
環境対策委員会	0回
ネットワーク委員会	7回
研究倫理委員会	8回

(5) 教学関係

(ア) 教育課程（カリキュラム）

- 2020年4月開設の教員養成を主たる目的とする教育学部教育学科のカリキュラム等の検討・整備を行ない、文部科学省の設置認可を受けた。
- 教育職員免許法、教育職員免許法施行規則の2019年（平成31）年4月1日改正に伴い、教員養成課程のカリキュラムの整備を行った。
- 総合文芸学科の2019年度学生募集停止と同学科の日本語日本文化学科への統合によるカリキュラム再編成に取り組んだ。
- 海外インターンシップの単位認定について検討を行ない、科目を新設した。

(イ) 履修規程の制定

神戸松蔭女子学院大学履修規程の制定に向けた検討を行い、次の事項を明記することとした。

- 1単位当たりの授業時間と必要な授業外学修時間
- 履修登録単位数の上限と成績基準による上限の引上げ、引下げ
- 成績評価基準及び評価の定義
- 卒業研究とその評価方法
- GPAによる成績評価の活用
- 学業不振による学生指導と退学勧告

(ウ) 卒業時アンケート

大学4年間の教育課程を通して、学生の学修成果、大学教育の教育成果を測るために、2018年度卒業者に対して第1回目の「卒業時アンケート」を実施した。集計結果について検証を行い、ホームページ上で公開する予定である。

(エ) 卒業者数

2018（平成30）年9月10日に、9月卒業の認定会議を開催し、文学部4名（日本語日本文化学科2名、総合文芸学科2名）と人間科学部4名（心理学科2名、生活学科都市生活専攻1

名、ファッション・ハウジングデザイン学科 1 名) の計 8 名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。

2019 (平成 31) 年 2 月 28 日に卒業認定会議を開催し、文学部 3 学科 154 名と人間科学部 4 学科 2 専攻 273 名の卒業を認定し、学士の学位授与を承認した。3 月卒業生の総数は 427 名である。

(オ) 標準修業年限で卒業した学生の割合等

2015 年度入学生の修業年限(4 年)での卒業生数、卒業率、留年者数、中途退学者数は次の表のとおりである。

学部	入学者数	修業年限内 卒業生数	卒業率	留年 者数	留年率	退学者数	退学率	その他
文学部	167 人	148 人	88.6%	7 人	4.2%	11 人	6.6%	1 人
人間科学部	312 人	270 人	86.5%	21 人	6.7%	19 人	6.1%	2 人
大学計	479 人	418 人	87.3%	28 人	5.8%	30 人	6.3%	3 人

(6) 大学院教育

教育の充実に努め、教育研究の進展と人材育成の進展を目指すとともに、研究倫理教育と研究不正防止に取組み、各専攻・指導教員が大学院の授業や個別指導を通して倫理教育を実施した。人を対象とする研究については研究計画の提出を求め倫理綱領等による審査、判定を行っている。

大学院委員会は、学長、研究科長、副学長、教務部長、学生部長、入試部長および大学院科目担当の専任教員で構成し、定例として月 1 回開催としている。2018 年度は 11 回開催し、次の事項を審議した。

- ① 2019 年度教育課程に関する事項
- ② 2018 年度修了認定、学位審査に関する事項
- ③ 2019 年度心理学専攻の新任教員人事 (2 名) に関する事項
- ④ 他大学との交流協定に基づく単位の認定
- ⑤ 大学院入試に関する事項
- ⑥ 予算の編成等に関する事項

2019 年 (平成 31) 年 3 月 10 日の大学院委員会 (修了認定会議) において、文学研究科言語科学専攻 (博士課程) 1 名の学位論文審査結果と最終試験判定結果を基に博士 (言語科学) の学位授与について審議し、承認した。文学研究科英語学専攻 (修士課程) 2 名、国語国文学専攻 (修士課程) 1 名と心理学専攻 (修士課程) 12 名の学位論文審査結果並びに最終試験判定結果を審議し、英語学専攻 1 名、国語国文学専攻 1 名、心理学専攻 12 名の修了を認定。修士 (英語学) 1 名、修士 (国語国文学) 1 名、修士 (心理学) 12 名の学位授与を承認した。

(7) 学生生活関係

① 課外活動

クラブ・同好会一覧

【運動部 (8)】

ソフトテニス部、テニス部、卓球部、なぎなた部、ラクロス部、アーチェリー部、剣道部、合気道部

【文化部（9）】

茶道部、書道部、箏曲部、美術・漫画研究会、文藝部、演劇部、放送部、I.S.A、
松蔭 TFT

【同好会（4）】

写真同好会、軽音同好会、フットサル同好会、ダンス同好会

2018年度におけるクラブ活動の主な成績は次のとおりである。

【ソフトテニス部】

関西学生ソフトテニスシングルス選手権大会	シングルス 優勝
兵庫県大学チーム対抗ソフトテニス競技大会	団 体 優勝
関西学生ソフトテニス春季リーグ戦（一部）	団 体 2位
近畿ソフトテニス選手権大会	ダブルス 2位
全日本シングルスソフトテニス選手権大会	シングルス ベスト8
関西学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス 優勝
兵庫県民大会	ダブルス 2位
兵庫学生ソフトテニス優勝大会	ダブルス 優勝
西日本学生ソフトテニス選手権大会	団 体 2位 ダブルス 優勝
西日本ソフトテニス選手権大会	ダブルス ベスト8
全日本学生ソフトテニス選手権大会	団 体 3位 ダブルス 2位 シングルス ベスト16
関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦（一部）	団 体 4位
兵庫学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス 優勝
兵庫県ソフトテニス選手権大会	ダブルス 2位
皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会	ダブルス ベスト16
関西学生ソフトテニス新人大会	ダブルス 優勝
関西学生選抜インドアソフトテニス選手権大会	ダブルス 優勝
兵庫学生ソフトテニス新進大会	ダブルス 優勝
全日本学生選抜ソフトテニスインドア選手権大会	ダブルス 2位

【テニス部】

関西学生春季テニストーナメント	シングルス ベスト8 ダブルス ベスト16
関西大学対抗テニスリーグ戦（二部）	団 体 優勝
関西学生地域テニストーナメント	シングルス 2位 ダブルス ベスト8

【なぎなた部】

神戸市民体育大会なぎなた競技会	演技の部 優勝 団体の部 優勝 個人の部 優勝
関西学生なぎなた選手権大会	団体競技 優勝

全日本学生なぎなた選手権大会	試合競技（段外） 2位
関西学生なぎなた新人戦大会	試合競技（初段） 優勝
神戸市総合体育大会なぎなた競技会	試合競技（二・三段） 優勝
	団体の部 優勝
	個人の部（有段） 優勝
	演技の部 優勝
	団体の部 優勝
	個人の部 優勝
西日本学生なぎなた選手権大会	演技の部 3位
	団体の部 2位
	個人の部 優勝

【卓球部】

ひろしまオープン卓球選手権	シングルス 3位
関西学生新人卓球大会	団 体 2位
	シングルス ベスト8
春季関西学生卓球リーグ戦（一部）	団 体 2位
前期日本卓球リーグ高知大会（二部）	団 体 3位
関西学生卓球選手権	シングルス 3位
	ダブルス 優勝
全日本大学総合卓球選手権大会	団 体 3位
秋季関西学生卓球リーグ戦（一部）	団 体 優勝
後期日本卓球リーグ酒田大会（二部）	団 体 3位
オール西日本卓球選手権大会	シングルス ベスト16

② 学生生活

(7) 学内奨学金について

2018年度の学内奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数	奨学金名	人数
・入学生特別奨学金①	10	・推薦選考スポーツ優秀者奨学金	22
・入学生特別奨学金②	4	・外国人留学生給付奨学金	1
・入学生特別奨学金③	9	・社会人特別入学生奨学金	0
・姉妹等奨学金	13	・社会人特別編入学奨学金	9
・松蔭ファミリー入学金優遇制度	27	・大学院留学生奨学金	0
・松蔭高校生特別推薦選考入学者奨学金	15	・ Semester 留学奨学金	44
・留学奨学金	0	・1年留学奨学金	6

(イ) 学外奨学金について

A. 学外貸与奨学金について

2018年度の学外貸与奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

大学	
奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	253
日本学生支援機構 第二種	478
その他 (2件)	3

大学院	
奨学金名	人数
日本学生支援機構 第一種	3

B. 学外給付奨学金について

2018年度の学内給付奨学金の種類と奨学生人数は以下の通りである。

奨学金名	人数
日本学生支援機構 給付	5
その他 (5件)	5

(ウ) 大学祭 (松蔭祭)

日 時	来場者数 (正門受付)
2018年11月17日 (土) 10:00-17:00	1,015名
11月18日 (日) 10:00-16:30	1,081名
	計 2,096名

【テーマ】 活気横溢 (かっきおういつ) ～私たちの夢や希望が、満ち溢れますように～
「活気」は生き生きとした気分、「横溢」は水などがみなぎりあふれている様子。
様々な人々が、あふれるほどの勇気や希望を持てますようにという意味を込めた。

【主なイベント】

- ・神戸ファッション美術館との連携調印式
- ・ファッション・ハウジングデザイン学科生によるファッションショー
- ・タレントスペシャルトークショー
- ・模擬店・展示
- ・神戸市立博物館「おきしお夢はこぶ号」
- ・野外ステージ
- ・その他、ビンゴ大会等

(エ) ハラスメント対策

1999年にセクシュアル・ハラスメント防止のためのガイドラインを定め、さらに相談体制や調査機関を整備し、人権が尊重されるキャンパスをめざしている。今年度も「ハラスメントをおこさないために」と題したパンフレットを全教職員及び全学生に配布し、ハラスメント防止の啓発に努めた。

(オ) 学生支援室

学生支援室では、身体障がい、発達障がい、精神障がい、慢性疾患あるいは心理的問題がある学生の修学支援や不登校の学生の相談対応をしている。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ支援員が在室し、2018年度は、56名の障がいや病気のある学生を支援した。

(カ) 学生相談室

学生相談室には、常時臨床心理士の資格をもつカウンセラーが在室し、学生の相談に応じている。また学生だけではなく、保護者・教職員からの学生についての相談（コンサルテーション）にも対応している。2018年度学生相談室利用実績は以下の通りである。

相談件数

のべ792名、相談実人数121名（学生108名、保護者7名、教職員6名、）。（昨年度は、のべ691名であり、相談件数は増加した）

学生相談室実施のグループワーク利用実績

- ・ハロークラブ（2009年4月～。毎月第4金曜日昼休みに、茶話会、クラフト、フラワーアレンジメントなどの会を実施）
- ・ほっこりカフェ（毎月第3金曜日昼休みに、過年度・復学・編入学の学生を対象に茶話会を実施。仲間を作る場所になっている。）

(キ) 保健室

利用者数は前年とほぼ変化はないが、メンタルで利用した学生が前年から約360名増え、年々増加傾向になっている（来室者総数のべ5180人）。2018年度の主な保健室の活動は次の通り。

1) 健康診断受診の徹底

- ・在校生健康診断 受診者数 1192名
 - ・新入生健康診断 受診者数 650名
- ※総受診者数 1842名（受診率 99.4%）

2) 健康診断内科診察時全学生の健康チェック

3) 入学前健康チェック

2018年度入学生入学前面談 17名

4) 学外実習参加前健康チェック

5) 留学生への問診、留学中の健康管理指導

- ・持病があり留学する学生について国際交流、学生支援室、保護者、本人で面談を実施。

6) 寮へ訪問し寮生の健康相談と健康管理指導

7) 学生支援室と連携

8) 体組成計を利用した健康指導

9) 学外実習に参加する子ども発達学科、食物栄養学科への保健指導

10) その他

＝感染症の件について＝

*2018年度のMRワクチン第3期接種率 88.1%

(ク) 学生寮

今年度も六甲寮の寮生に対して、6月2日（土）の消防訓練実施の際、本学保健室看護師による健康チェックを行い、全寮生の健康管理を行った。

(ケ) 松蔭GPについて

2018年度の松蔭GPは、以下の3つの企画が実施された。

1. 戦前の映像と写真メディアから松蔭と神戸の文化を再発見
2. 松蔭ビオラプロジェクト
3. 「神戸松蔭の魅力をカレンダーおよびクリアファイルで伝える」プロジェクト

(コ) キャンパスにおける安心・安全対策

通学バス、タクシーによる登校時の安全対策として、警備員による正門付近の交通整理作業を行った。また警備員による学内巡回警備をはじめ防犯カメラによる防犯体制を敷き、学生の安全・安心に配慮した。

(サ) 体育施設について

テニスコート（オムニコート）の目砂の補充と、経年劣化した体育館側の4コートの外周の人工芝の張替えおこない、正課活動（体育）、正課外活動（テニス部、ソフトテニス部）に支障がきたさない様配慮した。

(シ) 教育後援会（保護者会）について

大学と家庭の連携を密にし、本学の教育振興に寄与することを目的として2008年度にスタートした教育後援会は11年目を迎え、役員相互の交流を図りながら円滑な運営が行われるよう事務局として支援した。

今年度実施した総会、役員会開催日程及び主な行事は以下の通りである。

- ・総会 5月26日（土）
- ・役員会 5月12日（土）、7月21日（土）、2月16日（土）
- ・幹事会 4月7日（土）、6月16日（土）、9月29日（土）、2月2日（土）
- ・教育懇談会 2月16日（土）
- ・保護者懇談会 本学：10月13日（土）
講演会（講演者）吉川 美代子氏
保護者懇談会、個別懇談会
地方会場（岡山）：10月20日（土）

(8) 国際交流関係

① 語学研修・海外研修について（全学科全学年対象）

- (ア) 夏期海外研修：バンクーバー（カナダ）10名
- (イ) 春期語学研修：アデレード大学（オーストラリア）12名
- (ウ) 春期海外研修（ハワイ・ホノルル）5名
- (エ) 海外インターンシップ（中国・広東省）2名

② セメスター留学について（英語学科2年後期対象）

- (ア) ヨーク・セント・ジョン大学（イギリス）10名
- (イ) デラウェア大学（アメリカ）4名
- (ウ) アデレード大学（オーストラリア）11名
- (エ) オークランド大学（ニュージーランド）7名
- (オ) ビクトリア大学（カナダ）8名
- (カ) ヨーク大学（カナダ）18名

③ 学科別海外研修について

- (ア) 日本語日本文化学科：海外日本語教育実習 閩江学院（中国）8名
- (イ) 子ども発達学科：海外教育実習 アデレード大学（オーストラリア）16名

④ 海外日本語教育助手について

- (ア) 北京外国語大学（中国）：派遣期間 2018年9月～2019年7月
1名（日本語日本文化学科2017年度卒業1名）

- (イ) 閩江学院 (中国) : 派遣期間 2018年9月～2019年7月
1名 (日本語日本文化学科 2017年度卒業 1名)
- (ウ) アデレード大学 (オーストラリア) : 派遣期間 2018年4月～9月
1名 (英語学科 2017年度卒業)
- (エ) ダルマプルサダ大学 (インドネシア) : 派遣期間 2019年2月～3月 (4週間)
2名 (日本語文化学科 4年生 1名、英語学科 4年生 1名)
- (オ) ベトナム国家大学ホーチミン市校 (ベトナム) : 派遣期間 2019年2月～3月 (4週間)
2名 (国語国文学専攻 2年生 1名、国語国文学専攻 1年生 1名)

⑤ 受け入れ留学生

- (ア) 大 学 : 私費留学生 2名 (英語学科 3年生、食物栄養学科 1年生)
ヨーク・セント・ジョン大学 (イギリス) 交換留学生 4名
北京外国語大学 (中国) 留学生 1名
閩江学院 (中国) 留学生 1名

(9) キャリアサポートセンター関係

① 学生の就職支援

就職ガイダンス、ブラッシュアップセミナー、就職試験対策講座 (夏期集中講座・模擬試験・適性検査)、学内企業説明会、模擬面接 (集団・個人)、各就職講座 (インターンシップ講座・就活特訓講座・質問力セミナー・SPI 講座・エアラインセミナー・金融業界対策講座)、1 DAY 企業見学会、インターンシップ、個別相談 (キャリアカウンセリング : 通年) を実施。

② 就職状況 (2019年3月31日現在)

求職者数	就職者数	就職率
380人	378人	99.5%

③ 主な就職先

株式会社 アキュラホーム	コーナン商事 株式会社	株式会社 トヨタレンタリース神戸
大和ハウス工業 株式会社	株式会社 ジャヴァコーポレーション	株式会社 トリート
株式会社 ミライト	株式会社 東急ハンズ	エームサービス 株式会社
株式会社 あみだ池大黒	株式会社 赤ちゃん本舗	富士産業 株式会社
エスフーズ 株式会社	株式会社 TOKYO BASE	株式会社 ベネミール
株式会社 西利	株式会社 ファミリア	株式会社 マルタマフーズ
リクロー 株式会社	株式会社 ベベ	株式会社 電通デジタル
大関 株式会社	株式会社 ユナイテッドアローズ	株式会社 東具
大和肥料 株式会社	株式会社 リンク・セオリー・ジャパン	株式会社 ホテル日航大阪
Mother's Industry 株式会社	大阪トヨペット 株式会社	リゾートトラスト 株式会社
株式会社 ワコール	神戸トヨペット 株式会社	ロイヤルホールディングス 株式会社
共栄社化学 株式会社	ネットトヨタゾナ神戸 株式会社	株式会社 スタジオアリス
日本ペイントホールディングス 株式会社	ネットトヨタ兵庫 株式会社	株式会社 日本旅行
松垣薬品工業 株式会社	株式会社 キリン堂	バリューマネジメント 株式会社
東洋アルミニウム 株式会社	株式会社 コーセー	学校法人 関西医科大学

パナソニック 株式会社 (エコソリューションズ社)	株式会社 ココカラファインヘルスケア	学校法人 松蔭女子学院
太平洋工業 株式会社	株式会社 コスモス薬品	神戸市立夢野の丘小学校
大阪ガス 株式会社	株式会社 スギ薬局	吹田市立片山小学校
株式会社 ドコモCS関西	株式会社 ディーエイチシー	学校法人 熊見学園 夢の星幼稚園
九州テレ・コミュニケーションズ 株式会社	株式会社 日比谷花壇	学校法人 清泉学園 すみれ幼稚園
ダイワボウ情報システム 株式会社	株式会社 ボーネルンド	学校法人 常盤学園 やよいこども園
パーソルプロセス&テクノロジー 株式会社	株式会社 マツモトキヨシ	学校法人 豊中松田学園 豊中文化幼稚園
株式会社 ミライト情報システム	株式会社 百十四銀行	学校法人 阪急学園 段上幼稚園
株式会社 サイバーエージェント	株式会社 みずほフィナンシャルグループ	学校法人 みどり学園 須磨みどり幼稚園
株式会社 JTBパブリッシング	尼崎信用金庫	学校法人 室町学園 室町幼稚園
株式会社 マイナビ	大阪信用金庫	学校法人 八幡学園 八幡幼稚園
株式会社 ジュイエア	信金中央金庫	社会福祉法人 桂樹会 みどり園保育所
ジェットスターアジア航空	但馬信用金庫	社会福祉法人 鶴野会 つるのひまわり園
全日本空輸 株式会社	西兵庫信用金庫	神戸市立長田東保育所
高松商運 株式会社	姫路信用金庫	吹田市立片山保育園
日本航空 株式会社	株式会社 近畿しんきんカード	豊中市立高川こども園
ANAテレマート 株式会社	大和証券 株式会社	豊中市立島田こども園
ANA関西空港 株式会社	野村證券 株式会社	社会福祉法人 あすなる福祉会 あすなる保育園
株式会社 Kスカイ	株式会社 エスシーデータサービス	社会福祉法人 大慈厚生事業会 大慈こども園
株式会社 JALスカイ大阪	第一生命保険 株式会社	社会福祉法人 玉川学園 玉川学園保育園
CKTS 株式会社	三井住友海上火災保険 株式会社	社会保険診療報酬支払基金
内海水先区水先人会	神鋼不動産 株式会社	日本郵便 株式会社
西日本旅客鉄道 株式会社	三菱UFJ不動産販売 株式会社	兵庫西農業協同組合
近畿中央ヤクルト販売 株式会社	旭化成不動産レジデンス 株式会社	総合警備保障 株式会社
資生堂ジャパン 株式会社	積和不動産関西 株式会社	兵庫県庁

(10) 入試関係

本学の入試制度

- ① 特別推薦入学 (指定校)
- ② 松蔭高校生特別推薦選考
- ③ スポーツ優秀者推薦選考 (I期、II期)
- ④ AO入試 (I期、II期)
- ⑤ 有資格者特別入学試験
- ⑥ 社会人特別入学試験 (I期、II期)
- ⑦ 帰国子女特別入学試験
- ⑧ 海外指定校特別推薦入学
- ⑨ 外国人留学生特別入学試験
- ⑩ 推薦入学試験A日程
- ⑪ 推薦入学試験B日程
- ⑫ 推薦入学試験C日程
- ⑬ 一般入学試験A日程

- ⑭ 一般入学試験B日程
- ⑮ 一般入学試験C日程
- ⑯ 一般入学試験D日程
- ⑰ 大学入試センター試験を利用する選抜（センターA、Bプラス、C、D）

上記の入試制度により募集を行った結果、次のとおりの入試結果となり、大学は入学定員 570 名に対して入学者 655 名、定員充足率 115%であった。

2019年度 入試結果

大 学		募集人員	志 願	受 験	合 格	入 学
	指 定 校	94	130	130	130	130
	松蔭高校生		50	49	49	40
	スポーツ		12	12	12	12
	AOⅠ期	55	59	59	59	59
	AOⅡ期		13	13	13	13
	有資格者	若干名	4	4	4	4
	社会人Ⅰ・Ⅱ		0	0	0	0
	帰国子女		1	1	0	0
	海外指定校		0	0	0	0
	外国人留学生		1	1	1	1
	推 薦 A	130	315	314	245	70
	推 薦 B		353	187	135	22
	推 薦 C		223	213	179	55
	推薦・特別選抜計	279	1161	983	827	406
	一 般 A	249	593	588	497	105
	一 般 B		210	194	139	30
	一 般 C		441	381	285	77
	一 般 D		226	210	29	18
	センターA	42	410	410	130	13
	センターBプラス		136	121	46	1
	センターC		168	168	62	2
	センターD		75	75	10	3
一 般 選 抜 計	291	2259	2147	1198	249	
合 計	570	3420	3130	2025	655	

(2) 広報関係

① 出版物の作成

大学案内、入試ガイド、受験生向け広報媒体、入試問題集等の作成

② 公式サイトの更新

公式ホームページの情報更新等メンテナンス

- ③ 受験生向けサイトの充実
大学や近隣情報など受験生の関心の高い情報の随時更新、LINE 配信
- ④ 会場説明会
関西、北陸、中・四国などで開催される説明会に参加
- ⑤ 高校内説明会
主に、兵庫、大阪の高校内で開催される進学説明会に参加
- ⑥ オープンキャンパス等の実施
6月、7月、8月、9月、3月に開催するオープンキャンパスの企画、運営（年7回）
入試対策講座、授業見学会
- ⑦ 関西地域を中心とした高校訪問
- ⑧ 交通広告の作成
駅・バス停の看板の作成及び意匠変更
車内ポスターの作成
- ⑨ その他 WEB 関連の作成
業者企画の WEB サイト上の本学情報の作成及び変更
- ⑩ 高校教員対象の説明会の実施
大阪、本学で実施
- ⑪ キャンパスグッズの作成
- ⑫ 学生広報スタッフ研修会の実施
- ⑬ その他
その他各種団体からの広告要望への対応
各種団体からの取材要望への対応

(11) 施設・設備関係

- ① メイク授業の新設に伴い、1111 教室をメイク実習室に改修した。
- ② 41C 教室を、マグダレンチャペルに、オルガン練習室（81A）として移設改修した。
- ③ 6号館 1～3 階トイレを、リニューアル改修した。
- ④ 2号館保健室の空調を個別化した。
- ⑤ 松蔭大学会館地下駐車場のハロン消火設備を更新した。
又、安心安全の観点より、体育館可動客席の点検修理、南側道路の高木を剪定した。

(12) 情報インフラ整備工事

- ① 学内ネットワークの各種サービスを構築している仮想サーバ基盤の更新およびファイルサーバ、バックアップサーバの更新を行った。
- ② 松蔭ポータルシステムが稼動するサーバを上記仮想サーバ上で稼動するよう更新を行った。
- ③ 利用者管理（ユーザー認証）システムの OS サポート終了に伴いシステムの更新を行った。
- ④ 都市生活学科 524 教室のパソコン 42 台、およびプリンタ 1 台の更新を行った。
- ⑤ 事務系のファイルサーバ、汎用機（ACOS）のプリントコントロールサーバ、およびそれらのバックアップサーバの更新を行った。
- ⑥ 事務系のパソコン 57 台およびプリンタ 15 台の更新を行った。

(13)キリスト教センター関係

①ヌーンサービス：授業期間中の月、水、木、金曜日 12:40～13:00

チャペルにて104回（特別礼拝2回）

- ・聖週（受難週）礼拝 4月9日～4月13日（十字架ツアー 4月12日）
- ・復活節礼拝 4月16日～20日（イースターキャロル 4月19日）
- ・聖霊降臨節礼拝 5月21日～25日（ペンテコステ礼拝 5月24日）
- ・全校平和祈禱週間 7月2日～7月6日
- ・誕生日感謝礼拝 8回
- ・教育後援会総会礼拝 5月26日
- ・日本語・日本文化研修歓迎礼拝 7月12日
- ・セメスター留学壮行礼拝 8月2日
- ・広島平和礼拝報告会 10月18日
- ・チャペル奉仕学生・クリスマス実行委員任命式 10月25日
- ・逝去者記念礼拝 11月1日
- ・松蔭祭のためのお祈り 11月16日
- ・新年・成人祝福礼拝 1月7日
- ・阪神淡路大震災記念礼拝 1月11日

②特別礼拝

- ・入学感謝礼拝 4月7日
- ・ホームカミングデー開会礼拝 11月17日、12月15日
- ・なぎなた部全日本選手権大会団体の部優勝感謝礼拝 11月22日
- ・クリスマス・キャンドルサービス 12月5日
- ・クリスマス礼拝 12月7日
- ・新年礼拝 1月5日
- ・管理栄養士国家試験のための礼拝 2月25日
- ・卒業感謝礼拝 3月11日

③式典

- ・平和の折鶴献納（広島）8月6日
- ・名誉教授称号授与式 9月13日
- ・9月学位記授与式 9月20日

④募金活動

2018年度 合計 ¥1,003,726

- ・チャリティコンサート・レクチャーコンサートチケット販売代金 ¥406,862
- ・ボランティア・カフェ「リースヒェン」 実施9回の売上全額 ¥150,500
- ・被災地支援のための募金活動（8回実施） ¥150,273
- ・クリスマス礼拝での席上献金および学内教職員献金、
「クリスマスの夕べ」での売上・献金の合計 ¥117,433
- ・その他献金 ¥178,658

⑤献金先訪問：3回（11月2日、11月30日、3月14日）

⑥結婚式：6組

⑦公開行事・イベント

- ・バッハ・コレギウム・ジャパン神戸松蔭チャペルコンサート 3回

5月12日、9月15日、3月2日

- ・第6回子どもわくわくスクール「パイプオルガンにさわってみよう！」8月2日
- ・第152回オルガン・レクチャーコンサート 1回 10月13日
- ・クリスマス・ツリー点灯式 11月29日
- ・クリスマスの夕べ～チャペル奉仕学生による歌とオルガンのコンサート～12月15日

⑧ 印刷物

- ・チャペル・ニュース (発行1回 第120号)

⑨ 合宿・研修

- ・広島平和礼拝2018 平和の折鶴献納 8月6日
- ・聖歌隊合宿 8月21日～23日 (場所：母の家ベテル)
- ・カフェユ研修 8月22日 (場所：萩原珈琲工場見学)
- ・チャペル奉仕グループ全体研修合宿 9月2日～3日 (場所：川口基督教会、関西学院)
- ・聖歌隊合同練習 9月6日 (場所：本学チャペル)
- ・ブライダル・キャプテン研修 9月14日 (場所：ウェディングサロンイノウエ)
- ・ブライダル・キャプテン研修 9月19日 (場所：本学チャペル)
- ・オルガン奏楽グループ 2月24日～25日 (場所：横浜聖アンデレ教会他)
- ・カフェユ研修合宿 3月14日～15日 (場所：岡山聖オーガスチン教会他)
- ・ブライダル・キャプテン研修合宿 3月18日～19日 (場所：神戸ポートピアホテル)

(14) 図書館関係

① 図書館

〈所蔵数〉2019年3月末現在	(合計)	(和書)	(洋書)
蔵書冊数(備品)	406,741冊	298,102冊	108,639冊
雑誌種類数	3,520種	2,694種	826種
A V 資料	12,415点		

〈2018(平成30)年度受入数〉	(合計)	(和書)	(洋書)
図書	4,859冊	4,528冊	331冊
雑誌	1,113種	954種	159種
A V 資料	187点		
消耗図書	498冊		

〈図書館活動〉	(合計)	(学生)	(教職員他)
入館者数	38,129人	33,839人	4,290人
図書貸出数(AV資料含む)	30,318点	24,974点	5,344点
ノートパソコン貸出回数	1,815台	1,741台	74台

開館日数 267日

相互利用

(他大学との協力)

複写依頼	複写受付	図書借用	図書貸出	閲覧依頼	閲覧受付
107	471	16	175	5	31

オリエンテーション・ガイダンス

- ・「新入生クラス別オリエンテーション」各学科・グループに分け、1年生全員に実施
- ・新任教員、大学院生、編入生、留学生向けオリエンテーション実施
- ・2年生以上の学生対象に論文作成及び卒業研究のためのガイダンス実施

その他

- ・テーマを決めて図書を展示
- ・テーマを決めてオススメ本紹介
- ・新着図書紹介（毎週月曜日より1週間）
- ・女子高校生へ図書館開放
- ・「トライやる・ウィーク」3校5名受入
- ・授業公開講座受講生への図書館資料貸出
- ・「学生による選書ツアー」年1回実施
- ・「図書館の仕事体験プログラム」3日間実施
- ・「読書ラリー」実施（目標：卒業までに100冊読もう）
- ・「図書館古本市場」年1回（連続5日間）実施（除籍資料の活用）
- ・「学内選書フェア」年1回（連続5日間）実施
- ・「図書館マナーアップキャンペーン」実施
- ・「図書館ブログ」実施
- ・「図書館脱出ゲーム」実施
- ・図書館サポーター主催「ワークショップ(コラージュで作るしおり&ブックカバー他)」実施
- ・図書館サポーター企画の本棚「モノクル」実施
- ・図書館総合展「第3回全国学生協働サミット」「キャラクターグランプリ」図書館サポーター2名参加、「キャラクターグランプリ」において審査委員会特別賞受賞
- ・週刊読書人「書評キャンパス」図書館サポーター1名参加
- ・授業との協働の取り組みによる成果物を閲覧室にて展示（「Find your Library」, 「伝わる文章」）
- ・碧南市藤井達吉現代美術館における企画展に際し、本学の所蔵資料「おかべのよ一物語」を電子化したデータ及び情報を提供
- ・日本図書館協会機関誌『図書館雑誌』における「ウチの図書館お宝紹介！」の原稿依頼を受け当館所蔵の貴重書に関する記事を執筆、同誌第113巻第1号（通号1142号）に掲載

② 学術研究委員会

- ・出版 研究紀要3誌刊行（文学部篇、人間科学部篇、言語科学研究所篇）
- ・研修 「研究倫理eラーニングコース」大学院新入生他受講

(15) 地域連携

- 大学所在地の神戸市灘区まちづくり課との包括連携協定に基づく「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業」として、摩耶山掬星台での「素麺流し」企画の実施や摩耶山天上寺の「摩耶詣」等への学生ボランティアの派遣など、摩耶山活性化事業に参画した。
- 神戸開講150周年を記念して、神戸の海、街、山をイメージした「KOBE タータン」が創出され、産官学一体となったイメージ戦略が進められている。本学では、人間科学部ファッショ

ン・ハウジングデザイン学科が、「KOBE タータン」生地を使用した洋服や浴衣を作成し、“神戸みなとまつり”、“クロスメディアイベント「078」”、“旧居留地コレクション”、“神戸ファッションウィーク”でファッションショーを実施するなど、「KOBE タータン」のPR活動の一翼を担った。

- 連携協定先である神戸市博物館関連の事業として、「神戸の文化発信実行委員会」主催イベント「相楽園明治倶楽部～異人館で暮らす～」において、本学の学生と教職員がドレス着体験と洋菓子試食体験を実施した。また、日本在住の外国人を対象とした日本文化を体験するワークショップ「神戸市北区の萱葺き屋根の内田家住宅で日本の文化体験」では、英語学科が運営と通訳を担当し、日本語日本文化学科が書道のワークショップを行った。この二つの連携事業は、本学の学びと博物館の地域事業を連動させたものであり、神戸の魅力と本学の地域貢献活動を広報する良い機会となった。
- 2018年11月に神戸ファッション美術館と連携協定を締結、相互の人的・知的資源交流による研究と地域連携の強化を図る体制を整えた。

(16) 言語科学研究所

言語科学研究所の事業は次の活動からなっている。

1. 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* の発行
2. 研修員・研修生の受け入れ
3. 国内外の研究者による研究講演会（コロキウム）の開催
4. ウェブサイトによる情報の発信

1 機関誌 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* の発行

紀要 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* No. 22 を発行した。No. 22 は10名の執筆者により8編の論文を含み、内容も音韻論、形態音韻論、文法論、意味論、英語教育研究に加え、アゼルバイジャン語の疑問文についての文法と意味に関わる研究と分野が多岐にわたり、総ページ数も85ページとなった。本紀要はよく読まれており、No. 21ではダウンロード数が1000を超えているものがある。

2 研修員・研修生の受け入れ

2018年度は客員研究所員4名、研修員1名（前期のみ）を受け入れた。うち新規の客員研究所員アンカラ大学の吉村大樹氏は上記紀要TALKSに寄稿、アゼルバイジャン語についての論文を書いている。

客員研究所員、研修員は紀要TALKSに投稿のほか、国内外での学会発表など活発な研究活動を行っている。

3 ウェブサイトによる情報発信

2015年に全面リニューアルした研究所のウェブサイトでは、紀要 *Theoretical and Applied Linguistics (TALKS)* の全論文を、神戸松蔭女子学院大学学術機関リポジトリを介して閲覧できるようにしている他、所員、客員研究所員、研修員が関わっている日本学術振興会科学研究費助成事業（科研費）および「科研費」以外の資金による研究を示すページを作っており、年度内にあらたに採択された研究のデータを追加している。

(17)外国語教育センター

2018年度外国語教育センターが実施した主な事業は次のとおり。

- ① 全新生への TOEIC Bridge IP TEST 実施 (4月)
- ② TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施 (前期)
- ③ 新生事前登録外国語科目変更届取扱い
- ④ 英語科目履修者への TOEIC Bridge IP TEST 実施 (7月)
- ⑤ TOEIC Bridge IP TEST による英語科目レベル別クラス分けの実施 (後期)
- ⑥ 全1年生の出席0回調査実施 (前期・後期)、クラス担任と連携、授業担当者フィードバック
- ⑦ 英語科目受験資格なし調査実施 (前期・後期)
- ⑧ 英語科目合同追試験実施 (前期・後期)
- ⑨ 外国語教育センター科目担当者 (専任・非常勤) 連絡会
- ⑩ TOEIC Bridge 監督要領説明会実施 6/26 (火)、6/27 (水)
- ⑪ 全学希望者向け TOEIC IP TEST 年3回実施 (6/27、10/30、1/28)
- ⑫ English Island 開室
延べ利用者数 前期4月～7月 885名、後期9月～1月 669名
・ハロウィーンパーティー 10/25 (木) 実施
・お菓子の家作り (Let's Make a Gingerbread House) 12/18(火)実施
・クリスマスパーティー12/13 (木) 実施
- ⑬ ピア外国語応援サロン 開室
延べ利用者数 前期4月～7月 248名、後期9月～1月 272名
- ⑭ 英語ピア学習室 (AI/PI) 開室
延べ利用者数 前期4月～7月 64名、後期9月～1月 52名
- ⑮ CALL&LL 教室運営
Shoin Movie Theater 毎週1回授業空き時間を利用して実施
- ⑯ 英語スピーチコンテスト開催 12/20 (木)
- ⑰ 第37回夏季フランス語集中講座開催 8月7日～8月24日の15日間
- ⑱ 学内向け Web サイト管理運営
外国語教育センターホームページ、CALL&LL 教室、English Island

(18)情報教育センター

情報教育センターが2018年度に実施した主な事業は次のとおりである。

- ① 情報教育・コンピュータ教室関係
 - ・情報教育改善のための Web アンケートを情報系列科目の各クラスで実施し、情報教育センターでデータの処理を行った。
 - ・年度初めに「Windows 教室ガイド 2018.4」を作成・発行し、情報系列科目受講生・教職員に配布した。
 - ・SA (Student Assistant) に対して、業務内容についてのオリエンテーションとスキルチェックを実施した。
 - ・SA に対してスキル向上のため前期3回、後期3回に亘って勉強会を実施した。また SA に対して、この勉強会についてのアンケートを実施、またその結果の集計を行った。
- ② 学内ネットワーク関係

- ・KS-NET（神戸松蔭ネットワーク）の各種サービスを提供しているサーバ群ならびに授業用のファイルサーバのハードウェアの保守が順次終了することに伴い、これらのサーバの更新を行った。
- ・利用者管理システムで運用しているユーザー認証システムの OS の保守が終了しているため、当該システムを同スペックのシステムの更新を行った。

(19) 神戸松蔭こころのケア・センター

神戸松蔭こころのケア・センターは、地域に開かれた心理相談機関として、臨床心理学の教育・相談・研究の実践および地域貢献を目的として、活動している。

① 教育活動について

2017年3月に本学大学院を修了した者8名のうち7名が、2018年度の（財）日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」資格試験に合格した（合格率87.5%、全国の合格率63.6%）。本学出身の受験者総数は10名で、全体の合格者は8名であった（合格率80%）。

また、2018年度より国家資格となった公認心理師の試験が初めて実施され、本学の現役修了生は全員合格（100%、全国の合格率79.6%）であった。ちなみに臨床系の教員も全員が受験し、合格した。

② 心理相談活動について

本年度には、新規の相談申し込みは67事例（昨年度61事例）であった。前年度から継続してきた69事例も合わせると、合計相談件数は136事例であった。相談回数は、合計1431回（昨年度1133回）で、1件の平均相談回数は10.52回であった。

③ 研究活動について

研究報告誌「神戸松蔭こころのケア・センター 臨床心理学研究 第13号」を2018年6月に刊行した。講演録を1点、教員による学術論文を1点、センター相談スタッフによる研究論文を9点掲載した。研究報告誌は、全国の臨床心理士養成指定大学院と学内外の関係者（コメンテーター、スーパーヴァイザー、本学教員など）に送付した。

また、坂本真佐哉教授（所長）が代表・世話人を務める「神戸松蔭システムズアプローチ研究会」を6回開催し、参加者数の合計は、延べ185名であった。また、今年度の登録者数は、新規入会者16名を含め183名であった。

④ 広報活動について

当センターを地域一般に認知し、利用していただけるように、無料相談会を2回（春季5月21日～6月1日、秋季10月22日～11月2日）行い、灘区内の小学校、幼稚園にチラシを配布し、マスメディアへ記事掲載を依頼した。相談期間中の相談受付数は、春季26件、秋季3件であった。

(20) キャリア教育センター

キャリア教育センターは各学科・センター、特にキャリアサポートセンターと連携しながら、本学のキャリア教育の充実を目標に以下のような活動を実施し、学生一人ひとりが入学時（前）から卒業後も見据えて就職・進路に積極的かつ体系的に取り組めるように支援した。

① 入学時からの履修モデルとして「キャリアデザインプログラム」の推奨科目は、以下の通り。

「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザイン研究」、「ファイナンシャル・プランニング」、「簿記会計の基礎」、「簿記会計の実践」、「企業・職種・業界の基礎知識」

② 就労体験としての「インターンシップ」を実施した。

- ③ 全国大学実務教育協会が認定する資格取得者
「秘書士（国際秘書）」は24名、「上級秘書士」は14名が資格を取得した。
- ④ ANA 総合研究所との提携（講師）
「ホスピタリティ・マネジメント」、「エアライン・ホスピタリティ」開講
- ⑤ 大学基礎講座（入学前教育）で本学における「キャリア教育」を紹介
- ⑥ ハイレベル キャリアプログラム（5コース）への支援
- ⑦ ㈱ベネッセ i-キャリアの新入生全員対象とした基礎学力等の調査を目的とする「大学生基礎学力レポート」、2年生対象の「SPI 模擬テスト」、3年生対象の就職適性検査「キャリアアプローチ」を実施した。
- ⑧ 課外講座：資格・検定対策
「資格サポートオフィス」を設置
- ⑨ 学生個人のポートフォリオの運用開始
学生生活や学習の記録、基礎学力テスト結果、就職適性検査結果、就職活動内容などを学生自身、学科教員、キャリア教育センター所員、キャリアサポートセンター職員が閲覧できるよう、松蔭 manaba の「キャリア・コース」を運用した。
- ⑩ 「ファイナンス課程」立ち上げ
FP 技能士資格の取得をめざす資格取得課程を開設

(21) 教職支援センター

① 保育士資格および教育職員免許状（一種・専修）の授与件数

	保育士	幼稚園	小学校	中学校		高等学校		合計
		一種	一種	専修	一種	専修	一種	
授与件数	55	67	17	1	10	1	14	165

② 就職実績

就職者数	保育士		保育教諭		幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭		高等学校教諭	
	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他	正規	その他
	公 5	公 1	公 2	公 1	公 1	公 1	公 3	公 7	公 1	公 1	公 1	公 1
私 7	私 1	私 10	私 1	私 9	私 1	私 1	私 1	私 1	私 1	私 1	私 1	
	13		12		9		10		1		2	

③ 教員採用試験対策セミナーの実施

④ 教育学部教育学科の教職課程認定

2019年開設の教育学部教育学科について、2018年10月16日付けで下記の教職課程が認定された。

幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）、特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者領域、肢体不自由者領域、病弱者領域）

⑤ 教職課程再課程認定

2019年1月25日付で下記の教職課程が再課程認定された。

【英語学科】

中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）

【日本語日本文化学科】

中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許状（国語）、
高等学校教諭一種免許状（書道）

【都市生活学科】

中学校教諭一種免許状（家庭）、高等学校教諭一種免許状（家庭）

⑥ 指定保育士養成課程新規指定

2019年開設の教育学部教育学科幼児教育専修について、指定保育士養成施設として、平成31年3月27日付けで指定された。

⑦ 教職支援センター年報

教職支援センター年報第3号を8月10日に発行した。

⑧ 教職FD・SD研修会

教職課程認定学科教員、教職課程関連科目担当教員並びに教職課程関連業務担当職員を対象とした、教職FD・SD研修会を11月15日に実施した。研修内容は、元滋賀県高島町教育長・元滋賀大学教育学部教授の橋本源之助氏による講演「現役合格を見据えた組織的な支援体制のあり方」と、教職支援センターによる「新課程開始に伴う本学教職課程の変更について」であった。

⑨ 教員免許状更新講習

8月2日、3日に、幼稚園、小学校、中学校並びに高等学校の教諭を対象とした教員免許状更新講習を次のとおり実施した。

領域	講座名	対象者	定員	受講者数
必修領域 (6時間)	多文化・発達障がい支援・いじめへの対応を考える	全校種の教諭	160名	119名
選択必修領域 (6時間)	現代の学校をめぐる諸問題と危機管理上の課題	小学校・中学校・ 高等学校の教諭	40名	30名
	いま、幼児教育に求められるもの	幼稚園教諭	120名	89名

Ⅲ 財務の状況

1. 経年比較

科 目	H29/3	H30/3	H31/3
学生納付金収入	2,838,971	2,648,613	2,657,374
手数料収入	37,226	40,380	48,318
寄付金収入	18,185	16,783	15,255
補助金収入	558,439	515,190	491,515
資産売却収入	627,560	244,169	165,905
付随・収益事業収入	7,131	7,087	5,741
受取利息収入	110,498	117,389	109,626
雑収入	240,865	126,510	170,286
前受金収入	1,003,498	994,719	1,099,430
その他の収入	774,175	391,031	359,974
資金収入調整勘定	△ 1,051,260	△ 1,012,546	△ 999,981
前年度繰越支払資金	4,342,197	3,757,184	3,579,702
収入の部合計	9,507,486	7,846,509	7,703,145
人件費支出	2,512,353	2,291,590	2,333,270
教育研究経費支出	596,948	596,420	649,907
管理経費支出	432,025	361,744	391,636
借入金等利息支出	6,557	5,843	5,129
借入金等返済支出	52,760	52,760	52,760
施設関係支出	347,282	119,429	68,890
設備関係支出	64,397	50,151	79,814
資産運用支出	1,404,218	494,202	164,901
その他の支出	366,661	320,488	286,109
資金支出調整勘定	△ 32,900	△ 26,161	△ 30,572
翌年度繰越支払資金	3,757,184	3,579,702	3,701,301
支出の部合計	9,507,485	7,846,169	7,703,145

科 目	H29/3	H30/3	H31/3
学生生徒等納付金	2,838,971	2,648,613	2,657,374
手数料	37,226	40,380	48,318
寄付金	6,658	6,171	4,201
経常費等補助金	554,396	511,960	490,402
付随事業収入	7,131	7,087	5,741
雑収入	240,865	126,510	170,286
教育活動収入計	3,685,247	3,340,720	3,376,322
人件費	2,502,845	2,287,491	2,286,867
教育研究経費	1,009,978	1,017,385	1,056,361
管理経費	476,503	404,984	436,302
徴収不能額等	0	0	488
教育活動支出計	3,989,327	3,709,860	3,780,018
教育活動収支差額	△ 304,080	△ 369,140	△ 403,697
受取利息配当金	108,394	115,044	107,280
教育活動外収入計	108,394	115,044	107,280
借入金等利息	6,557	5,843	5,129
教育活動外支出	6,557	5,843	5,129
教育活動外収支差額	101,837	109,201	102,151
経常収支差額	△ 202,243	△ 259,940	△ 301,546
資産売却差額	121,115	81,080	6,738
その他の特別収入	18,556	16,031	13,580
特別収入計	139,671	97,111	20,317
資産処分差額	5,035	1,465	16,336
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	5,035	1,465	16,336
特別収支差額	134,636	95,646	3,981
基本金組入前収支差額	△ 67,607	△ 164,294	△ 297,564
基本金組入額合計	△ 378,222	△ 102,100	△ 125,251
当年度収支差額	△ 445,829	△ 266,394	△ 422,815

貸借対照表

(千円)

科 目	H29/3	H30/3	H31/3	科 目	H29/3	H30/3	H31/3
固定資産	23,170,503	23,134,786	22,768,966	固定負債	1,121,241	1,072,165	973,002
有形固定資産	17,506,098	17,212,022	16,906,719	長期借入金	386,080	333,320	280,560
土地	8,437,250	8,437,250	8,437,250	退職給与引当金	710,823	714,507	668,103
建物	6,354,566	6,080,769	5,668,070	退職預り金	24,338	24,338	24,338
図書	2,481,851	2,502,153	2,521,623	徴収不能引当金	2,841	2,841	2,841
機器備品他	232,432	191,850	279,777	流動負債	1,239,413	1,222,369	1,367,334
特定資産	5,465,050	5,753,123	5,702,308	短期借入金	52,760	52,760	52,760
その他の固定資産	199,354	169,641	159,939	前受金	1,003,498	994,719	1,099,430
流動資産	3,811,218	3,616,005	3,730,061	その他流動負債	183,155	174,890	215,144
現金預金	3,757,184	3,579,702	3,701,301	負債の部合計	2,360,654	2,294,534	2,340,335
その他流動資産	54,033	36,303	28,761	基本金	25,727,440	25,829,540	25,954,791
合計	26,981,721	26,750,791	26,499,027	消費収支差額の部	△ 1,106,374	△ 1,373,284	△ 1,796,099
				合計	26,981,721	26,750,791	26,499,027

千円未満四捨五入のため合計があわない場合があります

(1) 資金収支計算書について

資金収支計算書は、会計年度での諸活動に対応するすべての収入・支出の内容及び顛末を明らかにしたもので、資金収入は当該年度の負債とならない収入以外に負債となる借入金や前受金のほか、特定資産からの繰入収入などをいう。また資金支出は、当該年度の教育研究活動・その他活動に対する支出で、借入金返済支出、施設関係支出、特定預金への積立等の支出を含んでいる。

平成 30 年度の資金収入では、学生生徒納付金収入が約 9 百万円増加した。補助金収入は中高・大学ともに減少し、約 24 百万円の減収となった。資産売却収入は保有する債券等の売却によるもので資産運用支出と表裏一体の関係にある。雑収入の増加は、退職者増加に伴う退職金財団からの交付金増によるところが大きい。前受金収入は大学の在籍者数が上向いたことで約 104 百万円増収となったが、受取利息・配当金は運用環境悪化の影響を受け約 8 百万円の減収となった。

支出面では退職金支出により人件費は約 41 百万円増加、教育研究経費並びに管理経費も通信費や奨学費等により合算で約 84 百万円増加となった。施設関係支出等の設備投資は教育環境改善に向けた設備投資が中心である。

(2) 事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は教育活動、教育活動以外の経常的活動、前記活動以外の活動の 3 区分に対応した事業活動収入、事業活動支出の内容を明らかにし、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入・事業活動支出の状態を明らかにするものである。

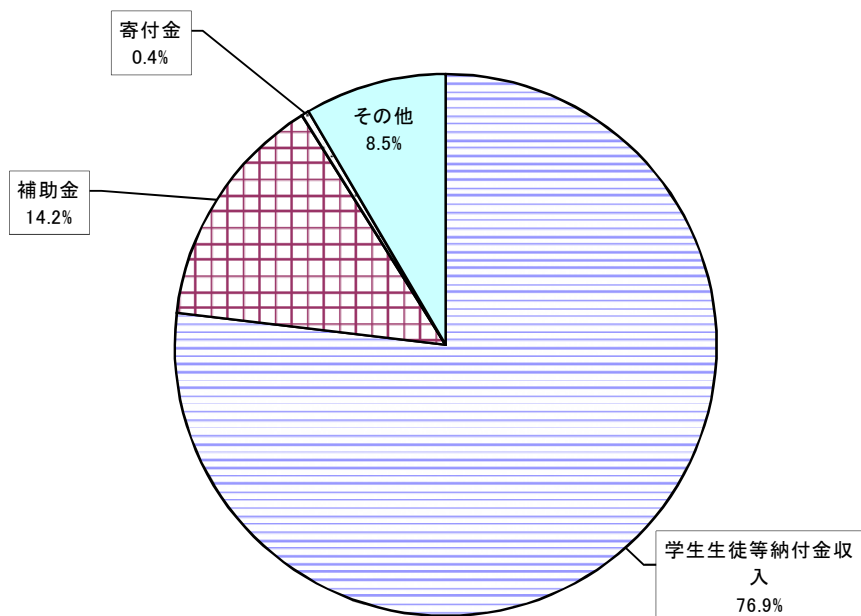
事業活動収入は当該会計年度の学校法人の負債とならない収入（学生生徒納付金、手数料、寄付金、補助金、受取利息・配当金収入等）で、事業活動支出は当該会計年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するものである。事業活動収支計算は前記 3 区分の活動ごとに事業活動収入と事業活動支出を対照して収支差額を計算すると共に 3 区分の収支差額合計額から基本金組入額を控除する。

資金収支計算書の説明で既述の通り、諸経費の増加や教育環境の向上のため設備投資を積極的に行ったことによる支出増加はあったが、収入面では大学の新入生数が 3 年連続で増加していることもあり収入面での改善は着実に進んでいる。また、保有資産の効率的運用により受取利息・配当金収入も相応の水準を確保している。

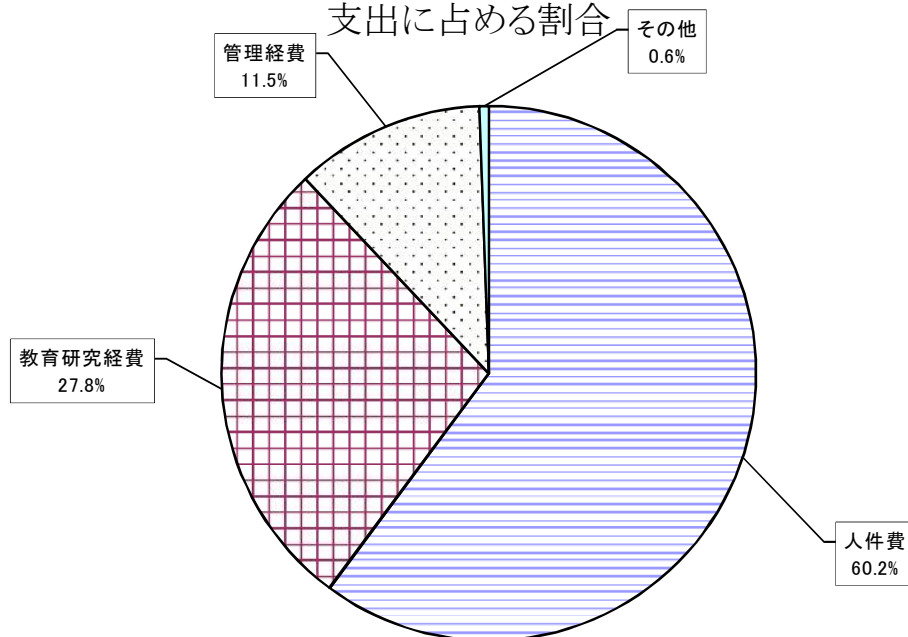
しかしながら、基本金組入前収支差額は約△298 百万円とマイナスが続いている。事業活動収入における学生付金収入割合は前年比+1.5%の 76.8%を占めており、教育環境充実に向けた補助金獲得増強、寄付金の増加などの収入の多様化が必要である。競争的資金の積極的獲得に向けた取り組みを強化すると共に同窓会並びに教育後援会との連携強化を図っていく。

事業活動支出に占める人件費比率は 60.2%と前年度比では 1.3%低下した。実績連動型報酬体系を導入することにより、同比率の大幅な上昇は無いと思われる。また、教育研究経費も 27.8%と前年比と略同水準であり、30%超を目途とした水準引き上げにより教育内容の充実を図っていく。

事業活動収入に占める割合



事業活動 支出に占める割合



(3) 貸借対照表について

貸借対照表とは、期末における財政状態を表したもので、資産・負債・純資産等を示している。
(説明は、下記「7 主要資産負債の内訳」を参照)。

2. 財産目録

財産目録総括表							
科目		年度		平成30年3月		平成31年3月	
一. 基本財産				17,062,645,645	円	16,234,049,848	円
1. 土地							
	(1) 大学校地	44,321	m ²	3,858,185,920	円	44,321	m ²
	(2) 中高等学校校地	13,522	m ²	385,483,264	円	13,522	m ²
	(3) 運動場	38,564	m ²	3,844,312,324	円	38,564	m ²
	(4) その他	43,392	m ²	72,799,495	円	43,392	m ²
	計	139,799	m ²	8,160,781,003	円	139,799	m ²
2. 建物							
	(1) 校舎	48,446	m ²	4,431,561,748	円	48,446	m ²
	(2) 図書館	4,154	m ²	243,598,071	円	4,154	m ²
	(3) 体育館	7,832	m ²	958,209,332	円	7,832	m ²
	(4) その他	4,582	m ²	342,104,174	円	4,582	m ²
	計	65,012	m ²	5,975,473,325	円	65,012	m ²
3. 図書		509,610	冊	2,502,152,823	円	509,913	冊
4. 教具・工具及び備品		19,202	点	191,850,032	円	19,055	点
5. その他				232,388,462	円	218,948,930	円
二. 運用財産				9,688,145,012	円	9,742,612,608	円
1. 預金・現金				3,579,702,346	円	3,701,300,512	円
	現金			6,760,390	円	8,813,868	円
	普通預金			1,206,941,956	円	1,624,486,644	円
	定期預金			2,366,000,000	円	2,068,000,000	円
2. 積立金				5,759,401,421	円	5,707,347,089	円
3. 不動産				276,469,297	円	276,469,297	円
4. 未収入金・前払金・その他				72,571,948	円	57,495,710	円
三. 負債額				2,294,534,086	円	2,340,335,244	円
1. 固定負債				1,072,164,929	円	973,001,509	円
	(1) 日本私立学校振興・共済事業団			273,240,000	円	250,470,000	円
	(2) 兵庫県私学振興協会			60,080,000	円	30,090,000	円
	(3) 退職給与引当金			714,506,581	円	668,103,161	円
	(4) 退職預り金			24,338,348	円	24,338,348	円
2. 流動負債				1,222,369,157	円	1,367,333,735	円
	(1) 短期借入金			52,760,000	円	52,760,000	円
	(2) 前受金			994,719,000	円	1,099,429,500	円
	(3) 未払金			17,002,576	円	14,703,786	円
	(4) 預り金			157,887,581	円	200,440,449	円
四. 基本財産 + 運用財産				26,750,790,657	円	25,976,662,456	円
五. 純資産(四-三)				24,456,256,571	円	23,636,327,212	円
総負債(三) - 前受金							
総資産(四)				4.9	%	4.8	%

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

I 資産総額	金	25,976,662,456 円
内 1 基本財産	金	16,234,049,848 円
2 運用財産	金	9,742,612,608 円
II 負債総額	金	2,340,335,244 円
III 正味財産	金	23,636,327,212 円

(注) 資産の評価基準は取得価額基準による。

3. 監事の監査報告書

監査報告書

令和 1 年 5 月 10 日

学校法人 松蔭女子学院
理事長 中村 豊殿

学校法人 松蔭女子学院
監事 田嶋 紀雄
監事 山口 純

私ども監事は私立学校法第 37 条第 3 項に基づき、学校法人松蔭女子学院の平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）の業務ならびに財産の状況について監査をおこなった結果、次のとおり報告します。

1. 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、計算書類の記載と合致していると認めます。
2. 資金収支計算書、事業活動収支計算書類及び貸借対照表（左記いずれも付属明細書を含む）ならびに財産目録は、法令及び寄付行為に従い、学校法人の財産及び経営の状況を正しく示しているものと認めます。
3. 学校法人松蔭女子学院の業務に関する決定および執行は適切であり、業務または財産に関する不正事項、または法令もしくは寄付行為に違反する重大な事実は認めません。

以上

4. 借入金の状況

日本私学振興・共済事業団、(公社)兵庫県私学振興協会からの借入金は前年度残高から約定返済分 52,760 千円が減少した結果、期末総借入金残高は 333,320 千円になった(1年以内返済予定分 52,760 千円を含む)。

5. 資金調達の状況

新たな資金調達は無い。

6. 寄附金の状況

施設設備特別寄付金 13,985 千円、その他寄付金 1,270 千円、現物寄付 1,194 千円計 16,449 千円の寄付を受けた。

7. 主要資産負債の内訳

大学では 11 号館にメイク教室設置工事、6 号館洗面所改修工事、9 号館オルガン練習室改修など教育環境の向上および学生生活の快適性向上を主眼とした設備投資を実施した。

一方で減価償却の進行があり各科目の期末残高は、建物等計が 5,668 百万円(前年度比△413 百万円)になった。特定資産は 5,702 百万円で 51 百万円の減少となった。図書は新規購入等により 2,522 百万円(同 19 百万円)に増加した。

8. 補助金の推移

		(千円)		
		H29/3	H30/3	H31/3
国庫補助	中 高	1,552	3,527	648
	大 学	230,015	183,010	170,540
	計	231,567	186,537	171,188
地公体補助	中 高	321,100	322,272	314,339
	大 学	5,772	6,307	5,988
	計	326,872	328,579	320,327
合 計		558,439	515,116	491,515

中学高校に対する補助金および大学への補助金は、経常費補助金、施設整備関連補助金の合計は前年度比△23 百万円であった。今後も各学部平均した定員充足率達成に向け注力し経常費補助金増加をはかる。

9. 科学研究費補助金の受入状況

科学研究費補助金は、18 件、7,010 千円の実績で前年度に比べ件数・金額共に減少した。引続き件数・金額の増加を図る。

IV 対処すべき課題

1. 中学校・高等学校教育関係

2019年度の学校運営方針を定めて教職員で確認したが、具体的活動として日々の教育活動に落とし込むことが、今後のカリキュラムマネジメントとなる。これにより、教育の質を向上させ、有効な広報施策により入学定員を確保する。

教員の働き方改革については、2018年度、6日制授業（土曜授業の実施）に合わせて、1年単位の変形労働時間制を導入した。タイムレコーダーによる出退勤管理、週2日以上部活動休養日の設定など労働時間の抑制につながる制度改革をさらに検討しなければならない。一方で、教員の働き方改革が、生徒活動のマイナスとならないようにすることは当然である。通常授業日に勤務を要しない日（研究日）を設定しているが、その業務をカバーする体制をとっている。ある保護者は、学校評価アンケートに「仕事と休日のあり方を今の子供に見せることは、大切なことだ」とコメントしている。様々な観点に立ち、今後も働き方改革を推進する必要がある。

2. 中学校、高等学校の生徒募集計画

少子化が急加速するなかで、新たな「受験者層の掘り起こし」により、私立中学受験率を上昇させることが不可欠であり、この成否は私学の生命線である。2020年度中学1年生からの新ストリーム制では、小学校で教科化される「英語」を核に教育課程を一新する。

また、高校募集では、高1の英語特別クラスを「英語特別進学クラス」とし、2022年度からの新コース制へと発展させる。また、高校入学生に関して、英検2級取得者や中学段階での成績優良者に対する特待制度を拡充する。

- ① 2020年度中学募集人数を10名減の170名とする。高校は、2023年度募集を10名増の30名とする。
- ② 「英語の松蔭」を合言葉に、中学新ストリーム制とその後の高校コース制で、特色ある教育課程作りとプログラムの企画を行い、アピールする。
- ③ 中学募集活動としての校内説明会を4月より実施する。
- ④ 高校の募集活動は、中学訪問担当者を増員するなど拡充する。
- ⑤ 学院内の中高、大学の連携を深め、広報・募集活動での連携を強化する。
- ⑥ 英検受験会場として本校を提供し、学外からの小中学生受験者に対して、学校紹介を行う。
- ⑦ 児童生徒数が増加している地域を広報重点地区とし、積極的に活動をすすめる。地域密着型説明会（各地区出張ミニ説明会）活動を拡大する。
- ⑧ 学外での合同説明会への参画機会を増やす
- ⑨ 帰国生入学や転編入の受け入れにつながる、海外への募集活動を強化する。
- ⑩ 中高同窓会（千と勢会）だけでなく、大学・短大同窓会（大学千と勢会）の協力を得て卒業生や関係者への広報をはかる。

3. 大学の新学部・新学科等の増設等

2019年4月開設の教育学部教育学科の届出が文部科学省に受理され、同時に教育学部教育学科の新設に伴い、人間科学部子ども発達学科と文学部総合文芸学科は、2019年4月以降の学生募集を停止することとなった。この改編により、2019年4月からは、「文学部」「人間科学部」の2学部8学科体制から「文学部」「人間科学部」「教育学部」の3学部7学科体制となる。これら学部学科の改編および継続して実施している教育改革の成果等により、2019年度入試は、入学定員を確保したものの収容定員の未充足は解消されていない。引き続き、本学の教育理念に沿った新たな教

育課程の開発を進める必要がある。

4. 大学の教育・研究関係

学修成果の把握、可視化は、本学が取り組むべき教育改革の大きな課題の一つとなる。2018年度にはその指標の一つとして、卒業時アンケートを実施した。成果指標の設定、成果確認の方法等について、次期認証評価への準備も含めて、整備を進める必要がある。大学としての教育目標の達成度の確認にもつながる重要な作業であり、具体的な方策の検討を進めたい。

各種授業における学生の能動的学習を促す方策の導入を進める。グループワークやチームで取り組む課題解決型の学習方法や活動を取り入れた授業の増加を目指すほか、講義系の科目においても、テーマについての事前の調べ、テーマ解説前後のQ&Aやディスカッションの設定など、さまざまな形でのアクティブラーニングの機会増加を目指す。

教育課程の質保証の方策の一つとして、授業外の学修時間の確保が重要である。授業テーマに関する基礎的課題の提示、授業内容をふまえた発展的研究の課題など、松蔭 manaba を活用した授業外学習の充実などにより、学生の自律的学習を促す体制の充実を目指す。また、授業外学習を支援する環境として、自習室の拡充などを計画するほか、あらためて図書館の利用促進を含めた自律学修の環境整備を図りたい。

2018年度・19年度入学予定者のうち希望者を対象に業者提供の「入学前準備講座」を実施した。高大接続の観点から求められている一般入試を含めた入学予定者全員を対象とする入学前教育の整備に向けて、全学共通教育センターと協力して、大学基礎講座との連携を含めた在宅型と登校型を組み合わせた複合的なプログラムの導入を目指す。

内部質保証のさらなる充実をはかるため、FD活動充実を目指し、新たに制定した教員表彰規程に沿って、優秀教育賞、先進教育賞を表彰し、その教育実践を全学に広め、教育改善を図る取り組みとした。さらにFD研修会を充実させ、アクティブ・ラーニングの実践例の紹介などをテーマとして開催し、教職協働を推進し、職員と連携した教育活動を展開した。大学認証評価の受審を控え、第3期評価で重視される内部質保証システムを構築し有効に機能させるべく自己点検評価委の活動が始動している。今後、内部質保証システムの仕組みをさらに充実させるために、学外の有識者からの意見も含めて自己点検・評価の機能を向上させることが課題となる。

研究活動の充実に資する制度(各種研修、特別研究助成、研究成果公開発表特別助成)の利用が依然として低い。新たな制度として、新任教員(とりわけテニユア・トラック教員)のスタートアップの助成を検討する。

5. 大学の学生募集計画

2019年度新入生の募集については655名(定員570名、定員充足率114%)の入学となり、大学全体としては6年ぶりの定員確保となった。しかしながら、全学部・学科での定員確保には残念ながら至っておらず、引き続き安定した定員確保に向けての学生募集を地道に進めていく必要がある。

2020年度新入生の募集については、文部科学省が2021年度大学入学者選抜入試要項の改定を予告したことから現行制度下での最後の学生募集となるため、基本的に入試制度の大きな変更は行わず軽微な変更にとどめるものの、引き続き志願者層の拡大に向けて広報活動を行う計画である。以下はその主な変更点である。

- ① 昨年度、2回の入試日程で試験科目に追加した数学を3回に増やすとともに、受験可能学科を増やして志願者層の拡大を図る。

- ② 昨年度、一般入試 B 日程と大学入試センター試験の成績をプラスして合否判定するセンタープラス型入試を「センターB+」として新設したが、これを一般入試 A 日程に対しても実施し、「センターA+」として募集する。
- ③ 昨年度、一般入試 A・C・D 日程に合わせて大学入試センター試験の成績のみで合否判定する「センターA・C・D」を実施したが、これを一般入試 B 日程に対しても実施し、「センターB」として募集する。
- ④ 大学入試センター試験の成績のみで合否判定する「センターA・B・C・D」の募集要項を見直す（対象教科・科目・範囲や配点等）。
- ⑤ 大学案内の改善をさらに進め、本学ならびに学科・専修の魅力をアピールし、本学の知名度の向上ならびに志願者数増加を図る。
- ⑥ SNS 等による本学の情報発信を引き続き推し進め、本学の公式サイトを介して受験生やその保護者、高等学校に対して最新の情報を発信し続けることで、本学をアピールし、志願者数増加を図る。

6. 施設・設備関係

【中学校・高等学校関係】

(1) 校内施設の整備

本年度策定した「営繕5カ年計画」の初年度となる2019年度は、体育館の外壁及び内腰壁の張替工事を実施する。

次年度以降、電気室受電設備の更新、エレベータ法改正に伴う改修、PCB入り蛍光安定器処分、各塔屋屋上防水改修工事、外周フェンス改修を年次計画に沿って劣化の激しい物から順次実施する予定。

(2) 不稼働施設の早期処分

営繕計画実施のため、閉鎖中の不稼働施設（青谷寮・赤倉寮）の処分を行う。青谷寮については、売却を実施中であり、2019年度中の処分とする。赤倉寮については、引き続き売却先を捜索中であり、早期処分を進める。

【大学関係】

(1) 4号館1階西側学生ホールの拡張リニューアルの検討を進める。

(2) 教室のリニューアルを計画的に実施し、併せて機器備品の積極的更新により教育の質向上を目指す。

7. 財務関係

(1) 必要な設備投資を計画的に実施しながら将来の施設、教育内容充実のための教育設備構想に向け、均衡の取れた収支状況・財務体質の構築を目指す。

具体的には、財務体質の強化・財務内容の充実に向け原則として年度内収支均衡を意識した財務運営を継続する。併せて将来の設備投資への備えとして自己資金蓄積を引続き計画的に進める。

(2) 経費面でのコスト削減を進める一方で、教育水準の維持向上と特色のある高等教育機関としての予算配分・予算執行に注力し、教育研究費比率の維持上昇と学生サービス、学生満足度の向上を図る。

(3) 保有資産の効率的活用と管理コストの削減に努力するなど、経営資源の効率化と学生サービスの維持向上を目指す。